

## 第10回あきたの教師力高度化フォーラム

—インクルージョン時代の今、通常学校に求められること—

# 報 告 書

主催：秋田大学教職大学院

共催：秋田大学教育文化学部附属教職高度化センター

令和2年9月27日（日） 13:00～16:40

## 第10回あきたの教師力高度化フォーラム

### —インクルージョン時代の今、通常学校に求められること—

秋田大学教職大学院

藤井 慶博

第10回あきたの教師力高度化フォーラムが令和2年9月27日(日)13:00から16:40まで、新型コロナの影響でZoomによって行われました。北は北海道から南は沖縄まで、日本全国から190名ほどの方が参加しました。

最初に明星大学の小貫悟教授(右写真)から「授業のユニバーサルデザイン化の方法」と題した講演が行われました。小貫教授は『授業のユニバーサルデザイン入門』(東洋館出版社)、『通常学級での特別支援教育のスタンダード』(東京書籍)など多数の著作を出されています。



小貫教授の講演では、ユニバーサルデザインの授業を考える上で以下のような重要な点に触れられました。

- 授業環境の整備(参加支援)で刺激量の調整が必要。黒板の周りなどの掲示が多いことの課題。
- 授業視点の導入(理解支援)では、焦点化、視覚化、共有化とともに、展開の構造化、スモールステップ化、感覚の活用が必要。
- 授業展開の工夫(習得・活用支援)では、聞く時間を減らす、焦点化、共有化、視覚化で「考える」時間を増やす。
- 授業の展開で段差を作らないこと、必然性のある流れが重要。
- 授業展開で心が動かされること(情緒的反応)、山場があるようにする。「わかった」「できた」といった感嘆詞を重視する。どのような感嘆詞を想定するかで、めあてや解決課題の中身が変わる。導入で「アンカー」を打ち込む。
- めあて1の提示から20分程度でその山場がくるようにする、そこでめあて2を提示してまとめにつなげる。最初のめあてとまとめが時間的に離れすぎると、めあてが難しいものになりがち。
- 障害の社会モデルにより環境因子への注目がなされるようになったが、環境を整えたのに、個人の改善が見られないという捉え方がされ、環境因子の改善が自己目的化している場合がある。本来、環境因子の改善は個人因子の改善につながるものでなければならない。環境を整えていくことによって、障害を自分の中にあるだめなものにと

らえるのではなく、支援を受けられる能力を育て、それで自助能力が育っていく。やれるものが育っていく。本人も周りも楽になっていくことが必要。成功体験を重ねるという環境が保障されることで、成長できるという意識を持てるようになる。環境は手段である。本人の中にどのような変化を起こすかが重要である。

続いて「多様な子どもを包み込む教育の実践と展望」と題したシンポジウムが行われました。シンポジストは、宮崎芳子氏（日野市教育委員会 特別支援教育総合コーディネーター）、竹本弥生氏（神奈川県立橋本高等学校副校長）、櫻田武氏（大仙市教育委員会参事兼指導主事）が務められ、司会を武田篤教授（秋田大学）が務めました。宮崎氏からは日野市での取り組みが、竹本氏からは神奈川の高校での取り組みが、櫻田氏からは大仙市の取り組みが報告されました。

その後、チャットなどを活用しながら参加者との質疑応答が行われ、最後に小貫教授から助言が行われました。参加者からは、授業のユニバーサルデザインのポイントに関する質問や、日野市の「リソースルーム」の取組、神奈川県インクルーシブ教育推進校で学ぶ生徒の進路状況、大仙市で行っている個別の教育支援計画の情報共有などに関する質問が多く出されました。また「自分のすべきことが明確になりました。本日の学びを今後、子ども達に還元していきたいと思います」といった感想が寄せられました。



# 授業のユニバーサルデザイン化の方法

明星大学

小貫悟

# 新学習指導要領から

◎主体的・対話的で深い学びの  
実現に向けた授業改善



◎障害のある児童(生徒)などについては、  
学習活動を行う場合に生じる困難さに  
応じた指導内容や指導方法の工夫を  
計画的、組織的に行うこと。

= 授業のUD化??

# 校内研究としてのUD授業実践への道筋

## ◆ First challenge : 授業環境の整備 (参加支援)

クラス内理解/刺激量の調整/場の構造化/時間の構造化

## ◆ Second challenge : 授業視点の導入 (理解支援)

焦点化/展開の構造化/スモールステップ化/視覚化/感覚化/共有化

## ◆ Third challenge : 授業展開の工夫 (習得・活用支援)

山場から逆算/アンカーの打ち込み/課題設定/一般化につながるまとめ

※ Third challengeに至るには「研究授業」が不可欠



東京都 日野市  
公立小中学校全教師・教育委員会  
with  
小貫 悟

# 通常学級での 特別支援教育の スタンダード

自己チェックと  
ユニバーサルデザイン環境の  
作り方

東京書籍

ISBN: 978-4-487-80490-0

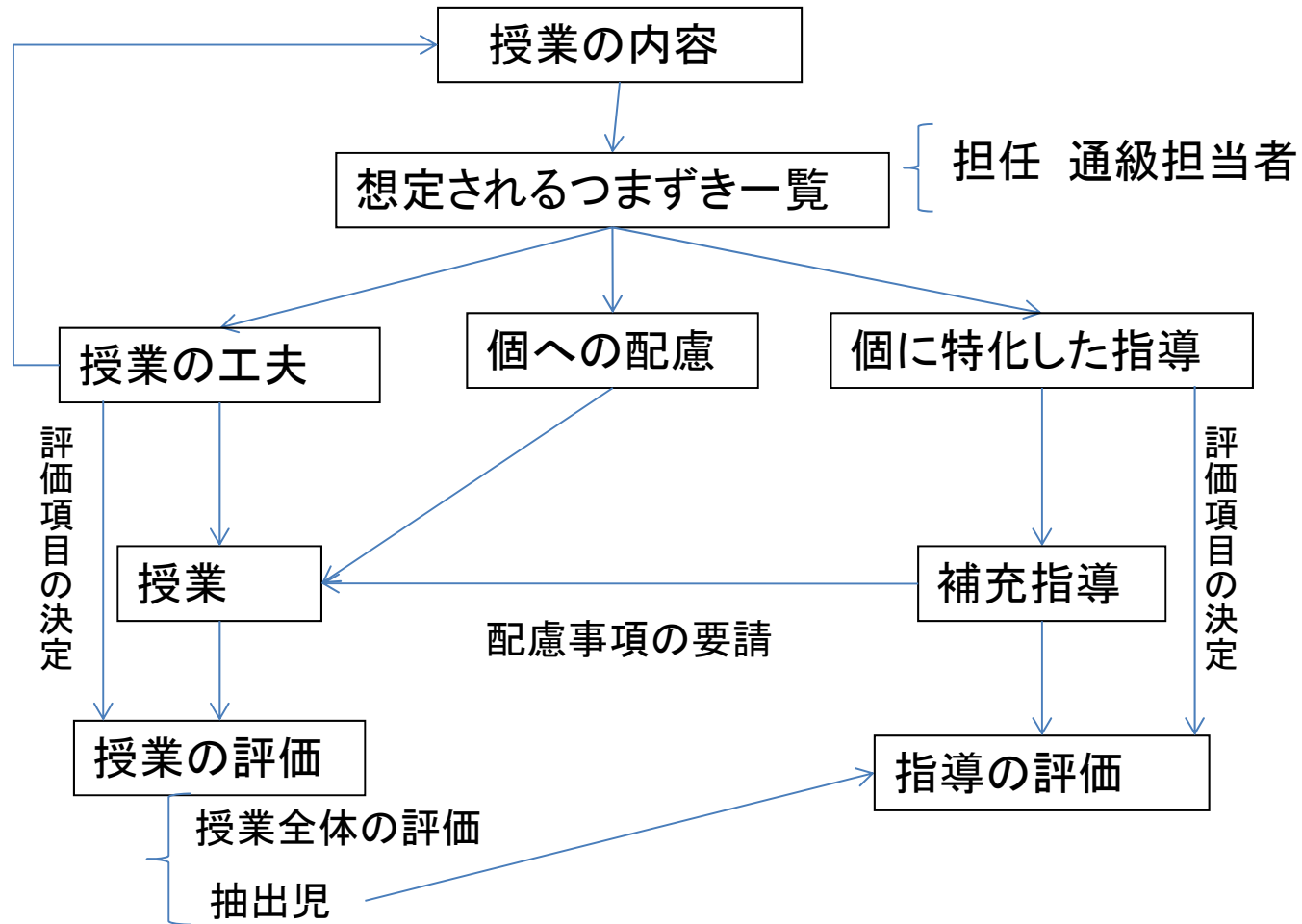
定価: 2940円

(本体 2800円)

発売年月: 2010.07.29

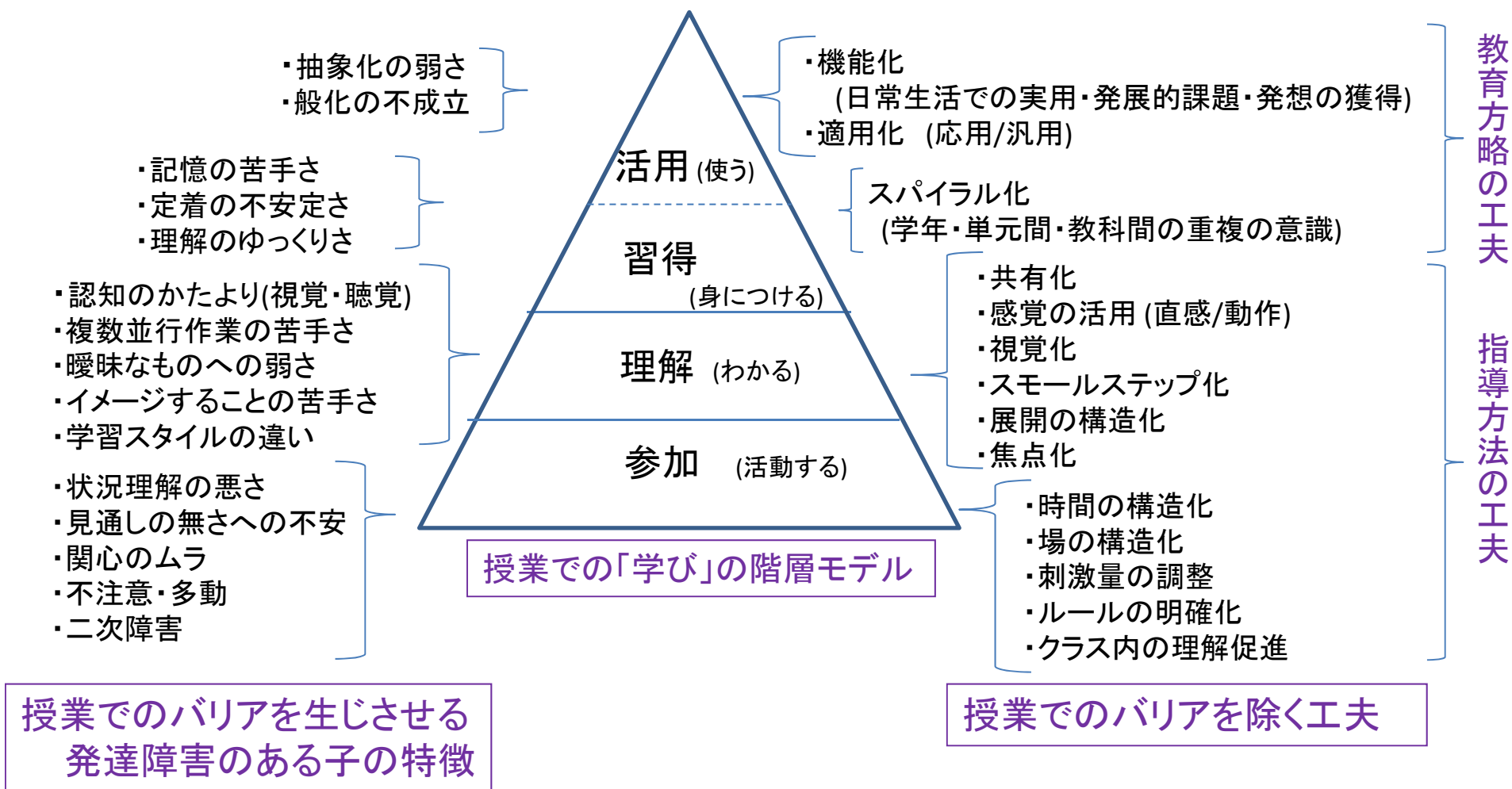
東京書籍

# 「UD授業」の構成図





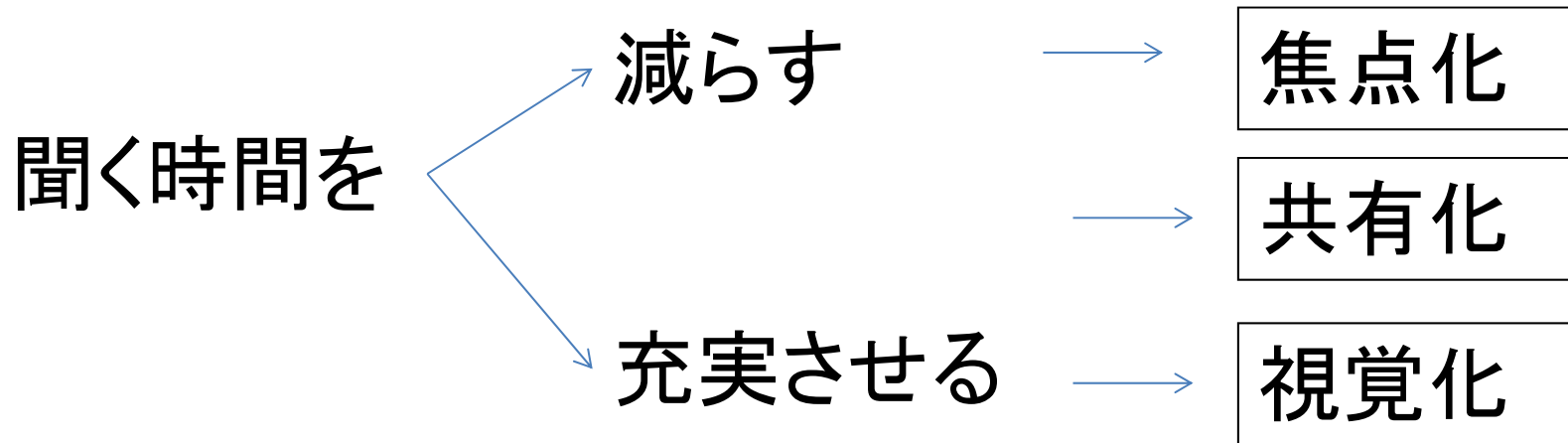
# 授業のUD化モデル



# 授業UDを構成する視点(理解)

- ◎**焦点化**・・・テーマ/情報/作業を精選する  
〈ノイズの少ない授業〉
- ◎**展開の構造化**・・・時間配分・論理構造の明確化  
〈論理の飛躍の解消・集中の持続〉
- ◎**スモールステップ化**・・・課題を細分化する  
〈踏み台を入れる〉
- ◎**視覚化**・・・情報の「見える化」  
〈瞬時に伝わる・消えない性質の活用〉
- ◎**感覚の活用**・・・直感、体感による認識の支え  
〈感覚的理解力の強さ〉
- ◎**共有化**・・・協同作業、意見交換、意思表示など  
〈意見をまとめる・ヒントを得る機会〉

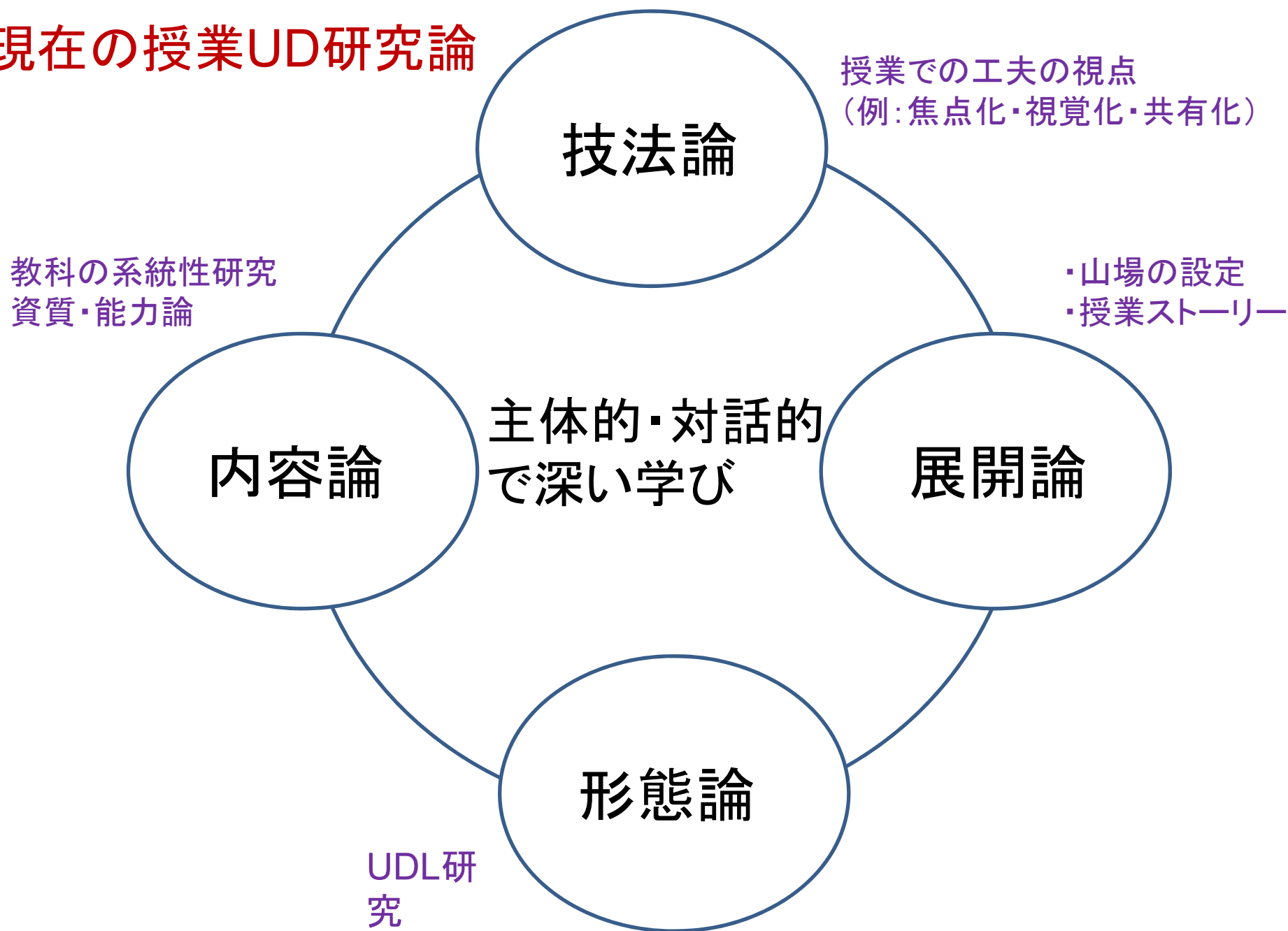
# 不参加が生じやすいのは「聞く時間」



「考える」時間を増やす

一人ひとりの子が「考えられる」サポート = 授業のUD化

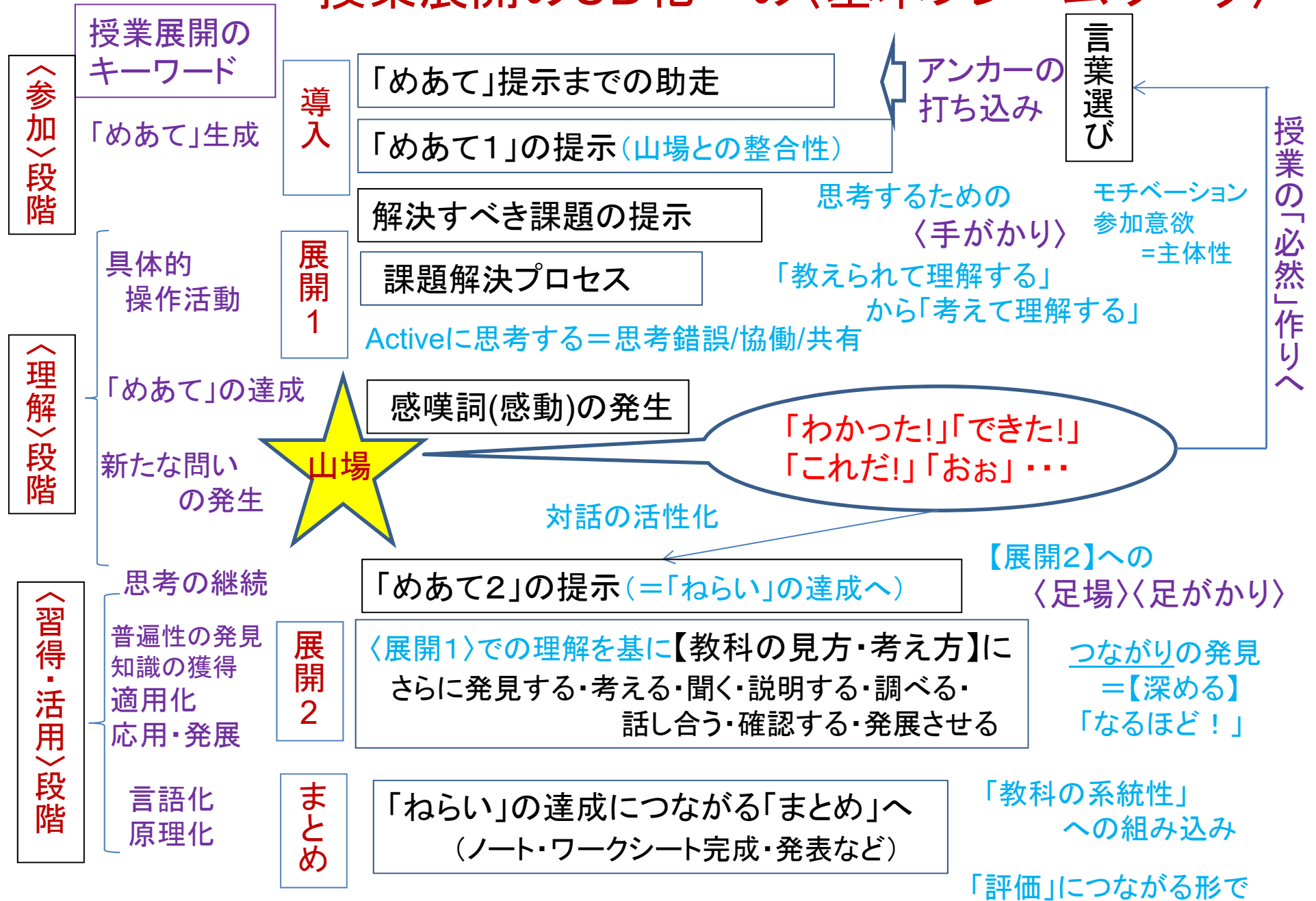
# 現在の授業UD研究論



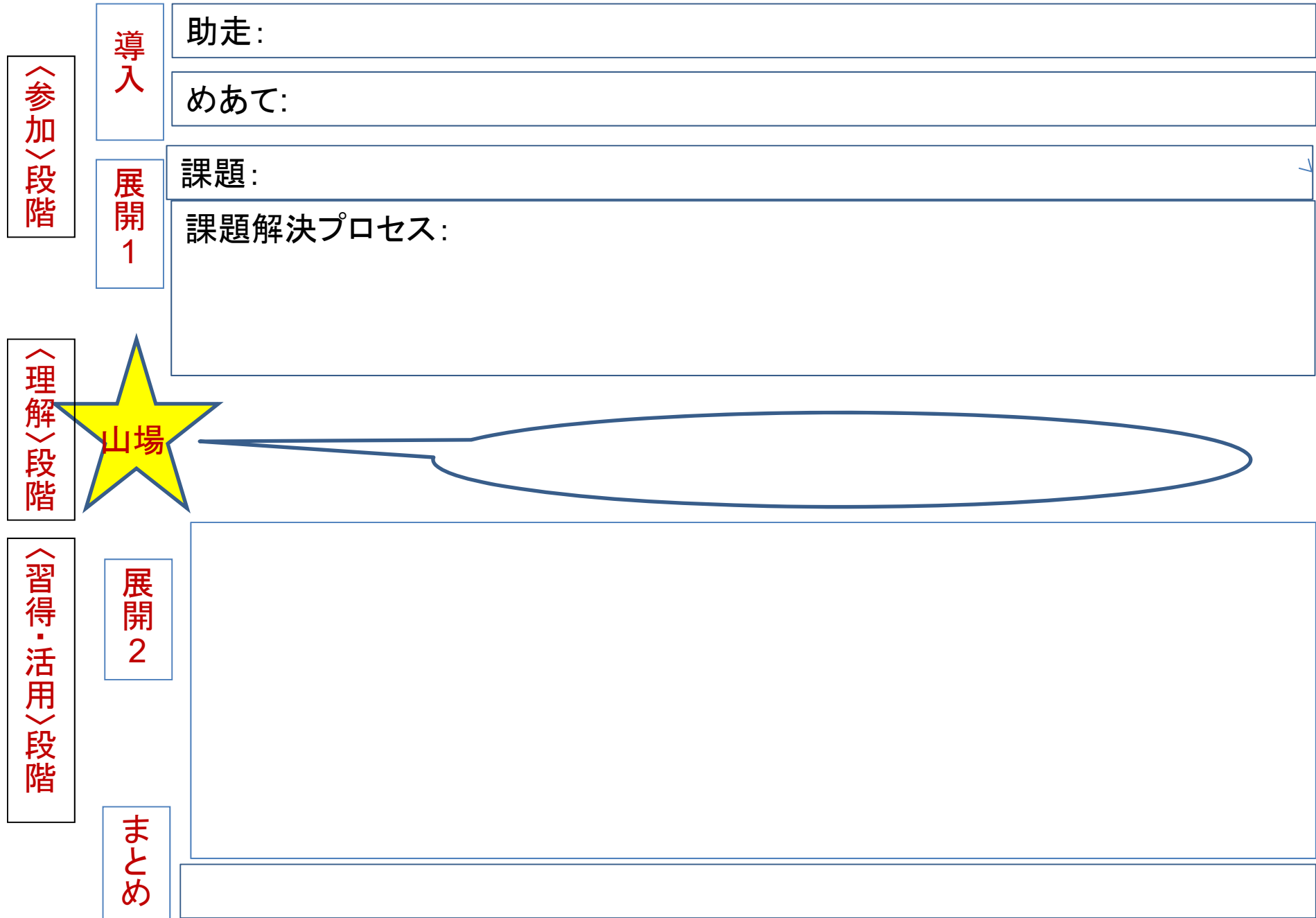
# 展開論のポイント

- ①論理に飛躍を作らないこと。
- ②時間配分によって一つ一つの課題に集中できる
- ③論理的な理解に「情緒的反応(納得)」が加わるようにする。

# 授業展開のUD化への〈基本フレームワーク〉



# ★UD展開論からの整理



# 構造に合わせた本時の組み立て案(たたき台)

指導案作りの  
キーワード

導入

助走: 挿絵の並びかえ⇒顔マーク

アンカーの  
打ち込み

言葉作り

授業の「必然」作りへ

「ねらい」  
の明確化

めあて: どんなふうにかもちがかわったのかな?

課題提示: スイミーがいうピッタリの言葉を見つけよう

〈理解〉段階

「しかけ」作り

展開1

●〈くまどりカエルアンコウ〉のセリフ:「君、黒いね〜」  
第一場面…「どうして僕だけ…」「みんな赤色でいいな」  
最後の場面…「でも…」「そのかわり…」  
◎ペアで思い思いのセリフを言ってみよう

ねらいの達成

イメージの  
明確化

山場

こんなふうにかもちが  
変わった!!

どうして、そのセリフが出てきたのかな?(本文へ)

〈習得・活用〉段階

適用化  
機能化  
応用・発展

展開2

※自分が黒いことをスイミーがどう思っているのかも考える

〈くまどりカエルあんこう〉に、「どうしてかと言うと…」も加えて、  
説明してあげよう。

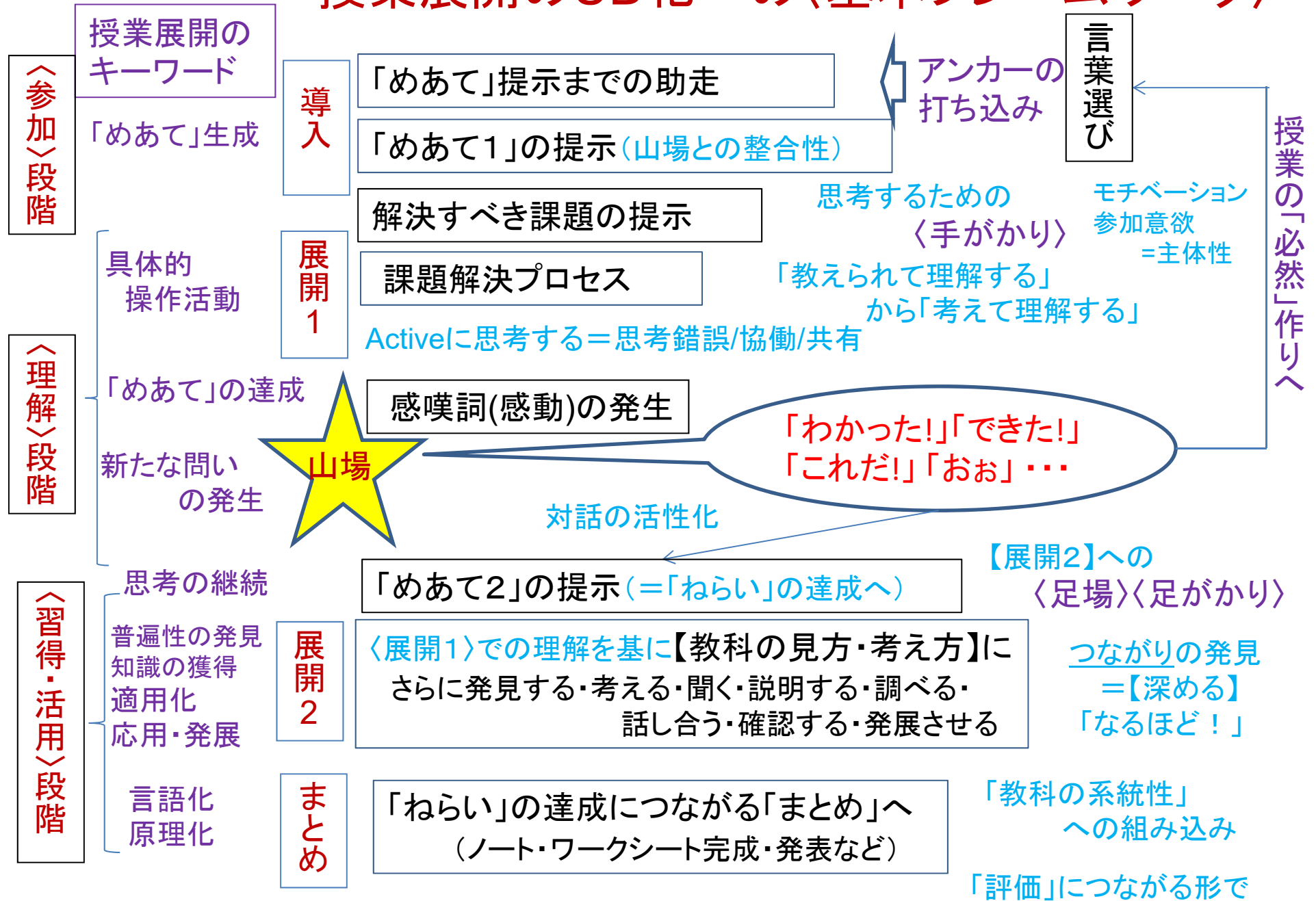
言語化  
原理化

まとめ

最初〇〇と思ったスイミーは、(〇〇があって)、〇〇と思うよう  
になりました。



# 授業展開のUD化への〈基本フレームワーク〉



# 構造提案(2年生;国語;漢詩)

〈参加〉段階

導入

助走:「詩です」「何語」⇒中国語、漢字ばかりだから⇒中国の詩です。**漢詩と言います**。どんなことを感じた? なんだかわからない。初めての漢字もある。

めあて:漢詩の中の世界をイメージしてみよう。

課題提示:漢詩の中の世界の印象を色で表現してみよう。「春暁」

〈理解〉段階

展開1

解決プロセス:班ごとに一行ずつ色を付けてみる。**その理由も決めましょう**

- ①選択肢はピンク、赤、黄、オレンジ、水色、紫、緑、グレー
- ②まずは漢字だけから想像してみよう⇒色決定。
- ③読み方を教えるね⇒**色変更**
- ④現代訳⇒**色変更**

山場

(なんとなく)想像できた!!

〈習得・活用〉段階

展開2

◎クラス全体でシェアしよう。理由を言って⇒**理由がみんな近いね**

◎もう一つにチャレンジしてみよう「絶句」。読み+現代語訳付

◎色決定⇒クラス全体の共有化

⇒**「二つの詩を並べてなんか気づくことない?」** ※対比

「3行目で色の傾向が変わるよ!」⇒漢詩の特徴**「起承転結」**

**春暁「一行目は…(起こす)」「2行目は…(承る)」「3…転じる」「4…結ぶ」**

◎見た目だけで同じこともあります。4行で5文字ずつ⇒**五言絶句**

まとめ

漢詩は、「五言絶句」で作るものがある⇒「起承転結」の構成が原則です

# UD展開試案

3年生:算数(あまりのある割り算1/6):川満先生:平良第一小:分けるときや余りが  
出る場合も除法の立式が出来ることを知り、乗法九九や図を用いて答えを求める  
ことができる。

参加段階	導入	助走:たくさん果物送ってもらった。友達におすそ分けしたいけど何人にあげられるかな?リンゴ20個4個ずつは?5人なんで、どうやってやったの? $20 \div 4 = 5$ だよ めあて:他の果物も袋にわけてできるだけたくさんの友達におすそ分けしよう。
		課題:23このみかんを4こずつおすそ分けします。何袋(何人分)できるかな?
	展開1	課題解決プロセス: ◎4つずつ <u>囲んでみたら</u> いいんじゃない。「5袋できる!!」5袋できるから5人! <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;">5袋できるから5人にわけることができる!</div>
理解段階	山場	「あれっふしぎなことが起きたよ」「なんか違う」なにがちがうの? 「余っちゃう…」 ◎ $23 \div 4 = 5$ じゃないよ。そうだね。 $23 \div 4$ は計算ができない 答えは「5袋できて3個余るね」。 $23 \div 4 = 5$ あまり3と書きます。 <u>なんでできないんだろう。4の段が使えない</u>
	展開2	めあて2: 4の段にない数が全部の数だったときの計算はどうしたらいいのかな? ◎6袋は?もっと友達にあげられる。ダメ! どうして?⇒だって一つたりなくなっちゃうよ。 $6 \times 4 = 24$ 一つ足りない $23 \div 4 = 6$ じゃない ◎4袋はダメ? どうして⇒どうということ? $4 \times 4$ は16だよ。23だと7つも余る。つまり $23 \div 4 = 4$ あまり7 もう1袋できちゃう=一番よい分け方じゃない⇒「4だと余り過ぎて、6だと足りなくなっちゃう」 <u>4の段を比べるといいね。</u> $23 \div 4 = 5$ あまり3が正解だ。
習得・活用段階	まとめ	あまりのある割り算は図や九九を使えばできる。「割り切れないわり算」という

指導案作りの  
キーワード

# 構造の提案(5年生 複合図形の体積)

アンカーの  
打ち込み

〈参加〉段階

導入

助走:「これな～んだ?」⇒「椅子!」「階段!」「踏み台!」  
これと(直方体)どっちが大きいかな?? 「こっち!」体積を求めれば

「ねらい」  
の明確化

めあて: どうやったら、いすの形の体積が求められるかな?

課題提示: 直方体といすの体積を求めて比べよう

〈理解〉段階

「しかけ」作り

展開  
1

解決プロセス:

- ・直方体⇒「簡単～」 1辺×1辺×1辺 ※既習事項復習
- ・じゃあ、いすは?? 「変な形だからできないよ～」
- ・どうしたらいい?
- ・「ぶった切ったら・・・」 ヒントツール①登場「体積の加法」

授業の「必然」作りへ

めあての達成  
イメージの  
明確化

山場

こうやったらいいんだ～!!

〈習得・活用〉段階

適用化  
機能化  
応用・発展

展開  
2

- ・じゃあ計算してみよう。「どっちが大きい??」「こっちだ～」
- ・「実はヒントツールはまだあるよ」  
ツール②(減法)+ツール③(変形)
- ・どんな風に考えるかな? ⇒ 共有化
- ・(それぞれ計算してみよう⇒「同じだ～」)

言語化  
原理化

まとめ

- ・いすのような形(分けられる形)を「複合図形」と言います
- ・分けると体積が求められます。

# 構造についての本時提案(中2 社会科)

アンカーの  
打ち込み

指導案作りの  
キーワード

導入

助走: 復習クイズ⇒日本の躍進を支えたものは「産業革命」  
繊維産業⇒女工資料(年齢+どんな仕事だった)「つら~い」

「ねらい」  
の明確化

めあて: **なぜ彼女たちは逃げなかったのだろうか??**

課題提示: 資料から読み取ろう。

「しかけ」作り

展開  
1

解決プロセス:  
◎資料を一枚ずつの全体提示 ※提示順も大切(視覚化)  
「矛盾してる~」「どういうこと」「わからなくなっちゃった」  
◎ペアで話し合ってみよう。  
◎全体共有: **「仕方なく働いていたんだよ」「気に入っていたんだよ」**  
◎一体どっちなの?? ⇒ 意見分布

めあての達成  
イメージの  
明確化

山場

こういう理由だ!!

〈理解〉段階

適用化  
機能化  
応用・発展

展開  
2

◎ どちらも正しい。**つまり、どういうことなんだろう?**  
⇒繊維産業で働いていた人だけでなく、**国民全体が苦しみながら**  
働いていた実態がある。  
◎「国民が、がんばったお金はどう使われたか確認しよう」  
⇒日本の産業の発展と歴史的エピソード

〈習得・活用〉段階

言語化  
原理化

まとめ

日本の躍進は〇〇によって支えられた  
⇒次なる課題: 財閥: 生産拡大: 労働社会問題 帝国主義(戦争)?

令和2年9月27日(日) 秋田大学教職大学院主催 教職員研修

インクルージョン時代の今、  
通常学校に求められること  
日野市の取組

日野市教育委員会

特別支援教育総合コーディネーター

宮崎 芳子

# 日野市で大事にしてきたこと

H19 特殊教育から特別支援教育へ

「場の教育～ニーズの教育へ」

H20 「通常学級での特別支援教育のスタンダード」取組

650人の全教員からうまくいった事例

ひのスタンダード・特別支援教育の基準

今も 毎年都の教員として異動してくる

120人以上の初任者、転入者に配布



定価：2,940円（本体 2,800円）

発売年月：2010.07.29

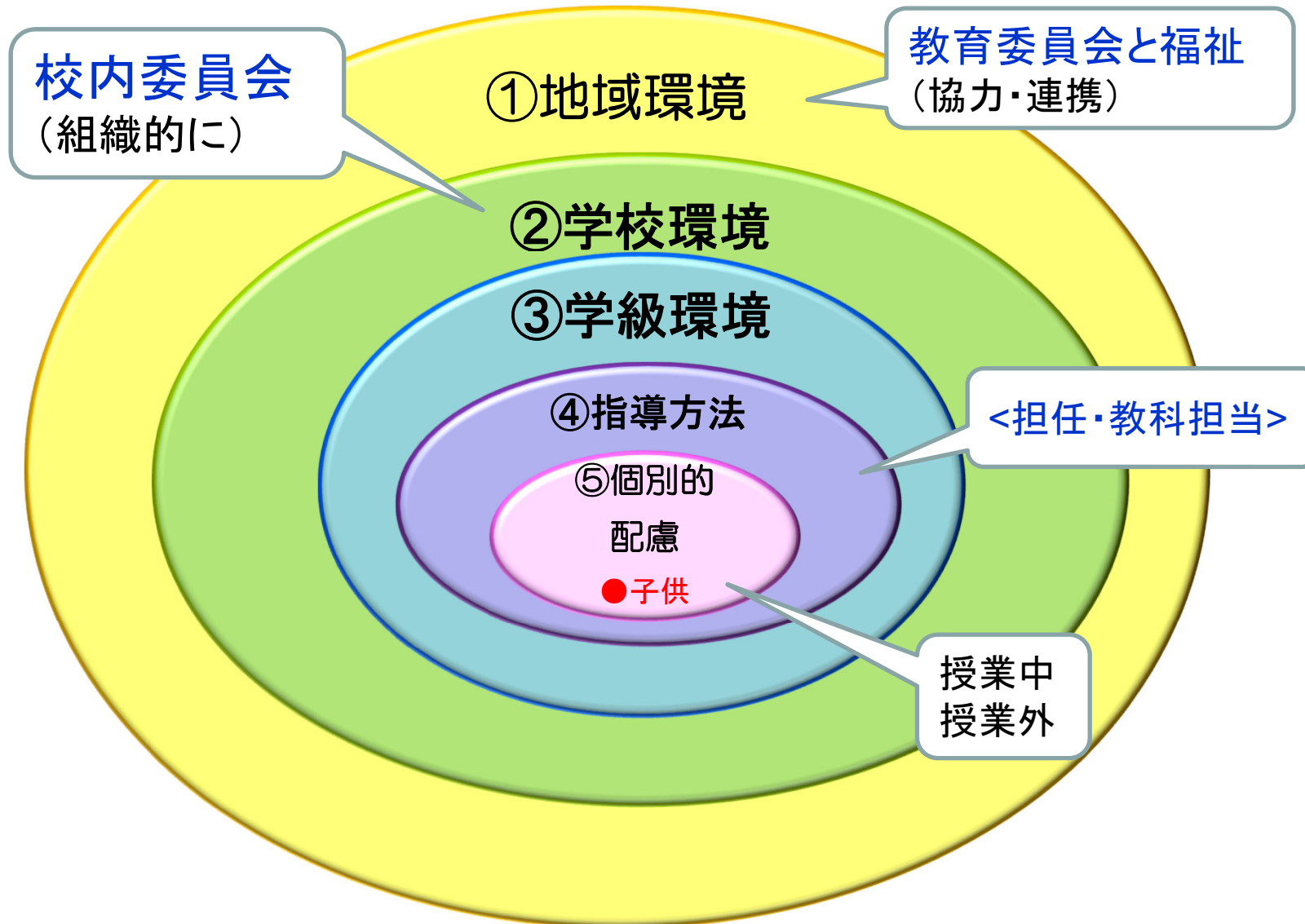
現在 12刷 東京書籍

## インクルーシブな環境

## ユニバーサルデザインの授業

R 2 一人ひとり学び方の違いに注目

# 子供が育つインクルーシブな環境 「包み込むモデル」





# ①地域環境

## エール（日野市発達・教育支援センター）

H26.4開設



気づく 育てる 見守る つなぐ

0歳～18歳まで福祉と教育が一体と  
なっていて切れ目のない支援、相談を実施

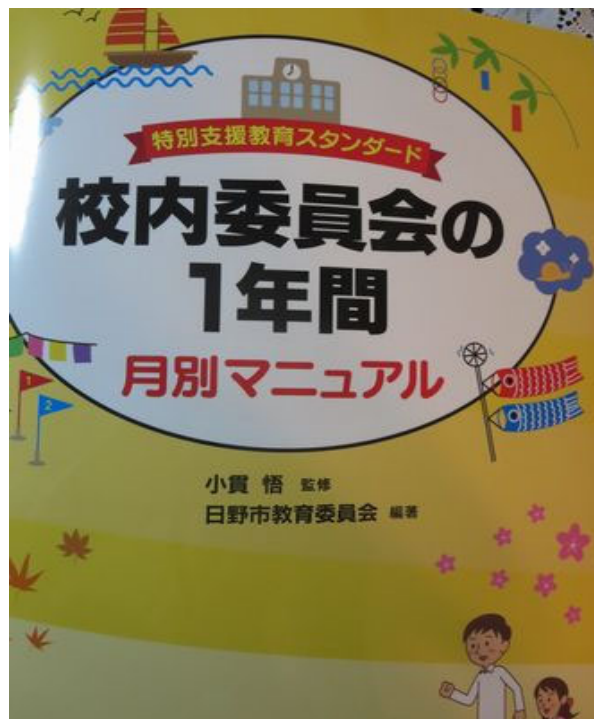
かしのきシート(日野市の個別の教育支援計画)を管理

市内全幼保、小中で作成したシートを電子システムでつなぐ  
高校、大学へは、本人・保護者の希望でつなぐ

**利用者**:現在3～18歳の子供の7パーセント2000人超

## ②学校環境

学校組織として校内委員会が機能しているか



(東洋館出版)  
日野市コーディネーターと作った本  
校内委員会を上手に運営するために

### 委員会の役割

- I 組織作り
  - II 理解啓発
  - III 発見・把握分析
  - IV 配慮・支援
  - V 評価
  - VI 引き継ぎ
  - VII 連携
- その他：不登校対応

## ③学級環境

場の構造化

刺激量の調整

ルールの明確化

相互理解の工夫

## ③学級環境

## 場の構造化

### 小学校チェックリスト№1

教室内のものについては一つ一つの置く位置が決まっていますか？



### ③学級環境

## 刺激量の調整

＜教師の言葉を削る＞

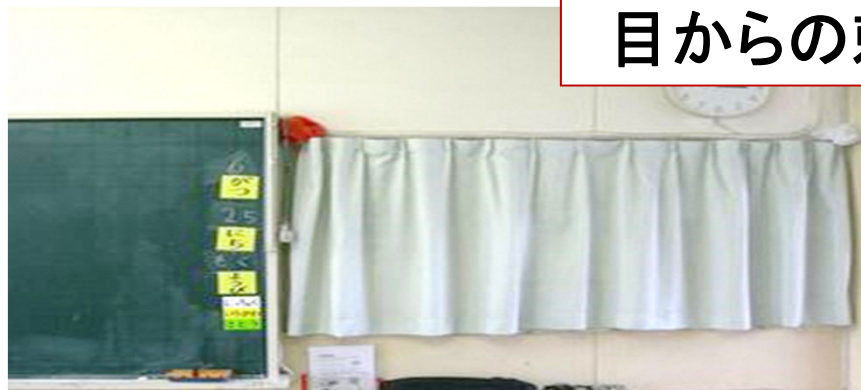
×

延々と続く長い話  
リズム・テンポが  
悪い

○

簡潔  
明瞭  
わかりやすい

目からの刺激



耳からの刺激

イーマフの配布



# 相互理解の工夫

## 一番は、人環境

互いの違いを認め合う温かな関係づくりを意図的につくる

「わからない」と言える学校

「助けて」と言える学校

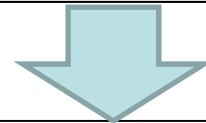
失敗やまちがいをいかす学校

何といたっても救われるのは  
授業が分かること

どの子も、楽しく  
「わかる」「できる」授業を創る  
=ユニバーサルデザインの授業づくり

教科のねらいは下げない

特別支援教育の視点で授業を工夫する



「主体的・対話的で深い学び」の授業改善

# 授業のUD化モデル図

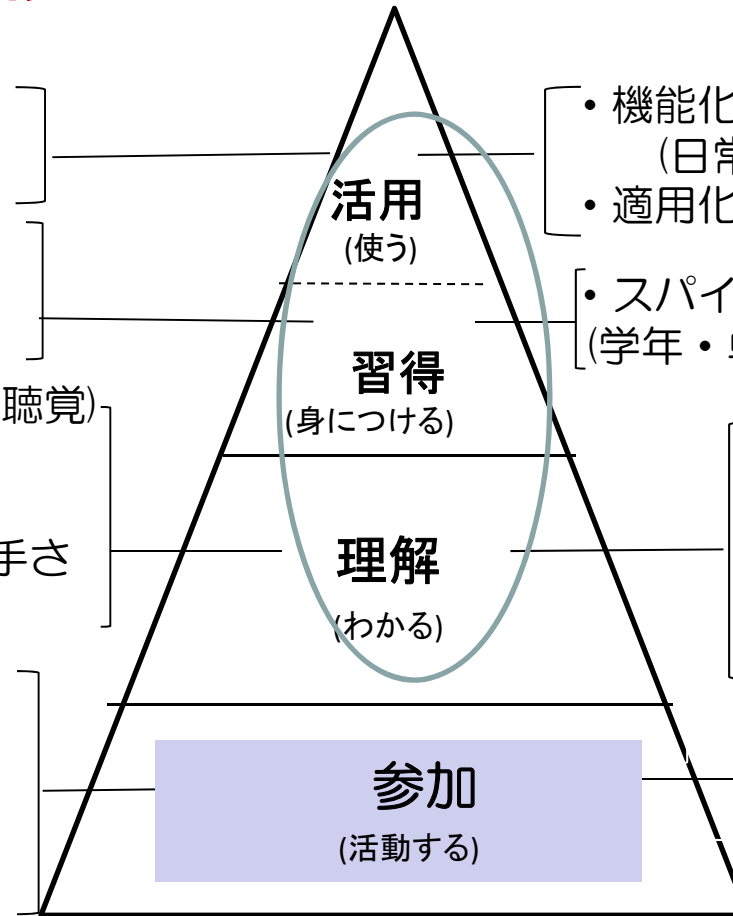
教育方略の工夫

指導方法の工夫

- 抽象化の弱さ
- 般化の不成立
- 記憶の苦手さ
- 定着の不安定さ
- 理解のゆっくりさ

- 認知のかたより(視覚・聴覚)
- 複数並行作業の苦手さ
- 曖昧なものへの弱さ
- イメージすることの苦手さ
- 学習スタイルの違い

- 状況理解の悪さ
- 見通しの無さへの不安
- 関心のムラ
- 注意集中・多動
- 二次障害



- 機能化  
(日常生活での実用・発展的課題)
- 適用化(応用/汎用)

- スパイラル化  
(学年・単元間・教科間の重複の意識)

- 共有化
- 身体性の活用(動作化 / 作業化)
- 視覚化
- スモールステップ化
- 展開の構造化
- 焦点化

- 時間の構造化
- 場の構造化
- 刺激量の調整
- ルールの明確化
- クラス内の理解促進

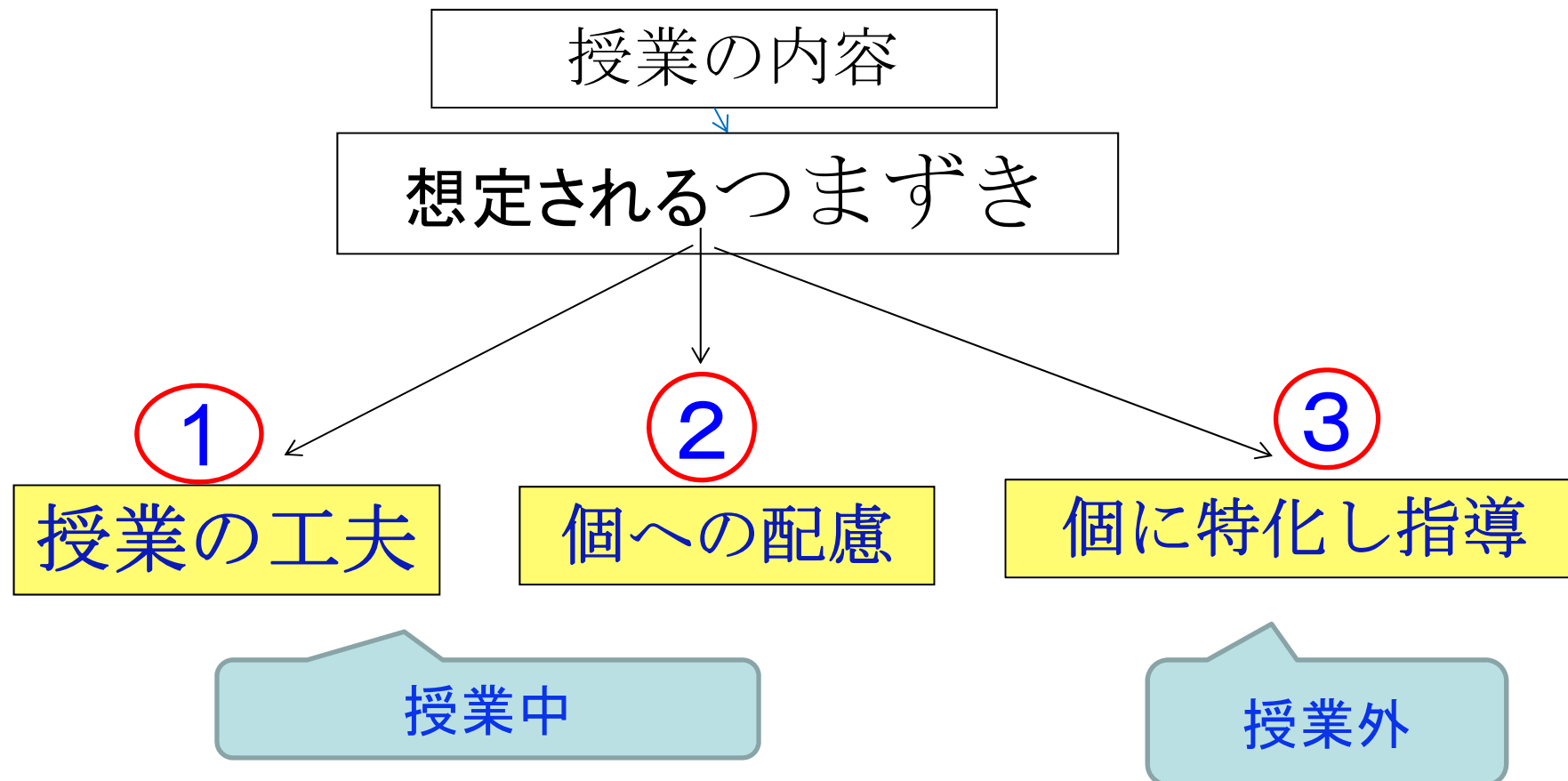
授業でのバリアを生じさせる  
発達障害のある子の特徴

授業でのバリアを除く工夫

明星大学小貫悟氏



# 全員を、分かった！楽しい！にする 「授業」の三段構え



# ① 授業の工夫

不参加が生じやすいのは

聞く時間

減らす

充実させる

「考える」時間を増やす

一人ひとりの子が  
サポートがある

「考えられる」

=授業のUD化

授業展開の構造化

しかけ

焦点化

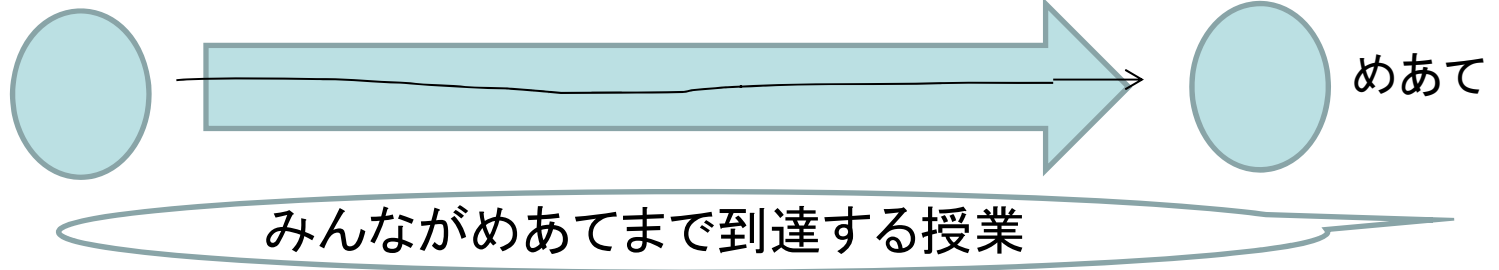
共有化

視覚化



# 焦点化

一番大事（シンプル）



教材研究  
単元計画

考えるためか

**目標**の焦点化

**発問**の焦点化

**活動**の焦点化

**評価**の焦点化

# 「深い学び」に向かう授業展開



ねらいの達成  
＜まとめ＞

達成

山場

めあての達成

そろえる

山場(足場)

＜展開2＞

新たな問い  
や追究で  
深める

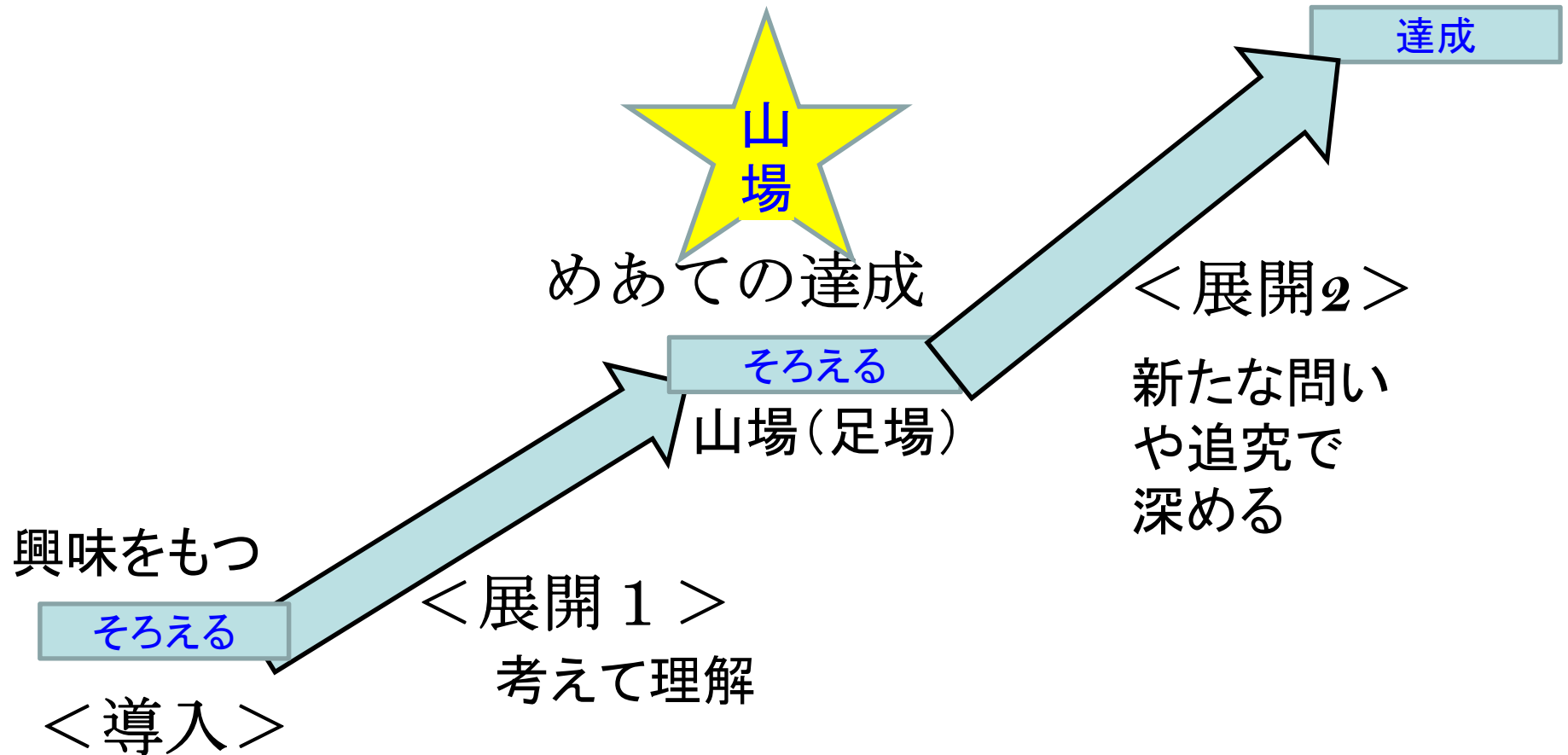
興味をもつ

そろえる

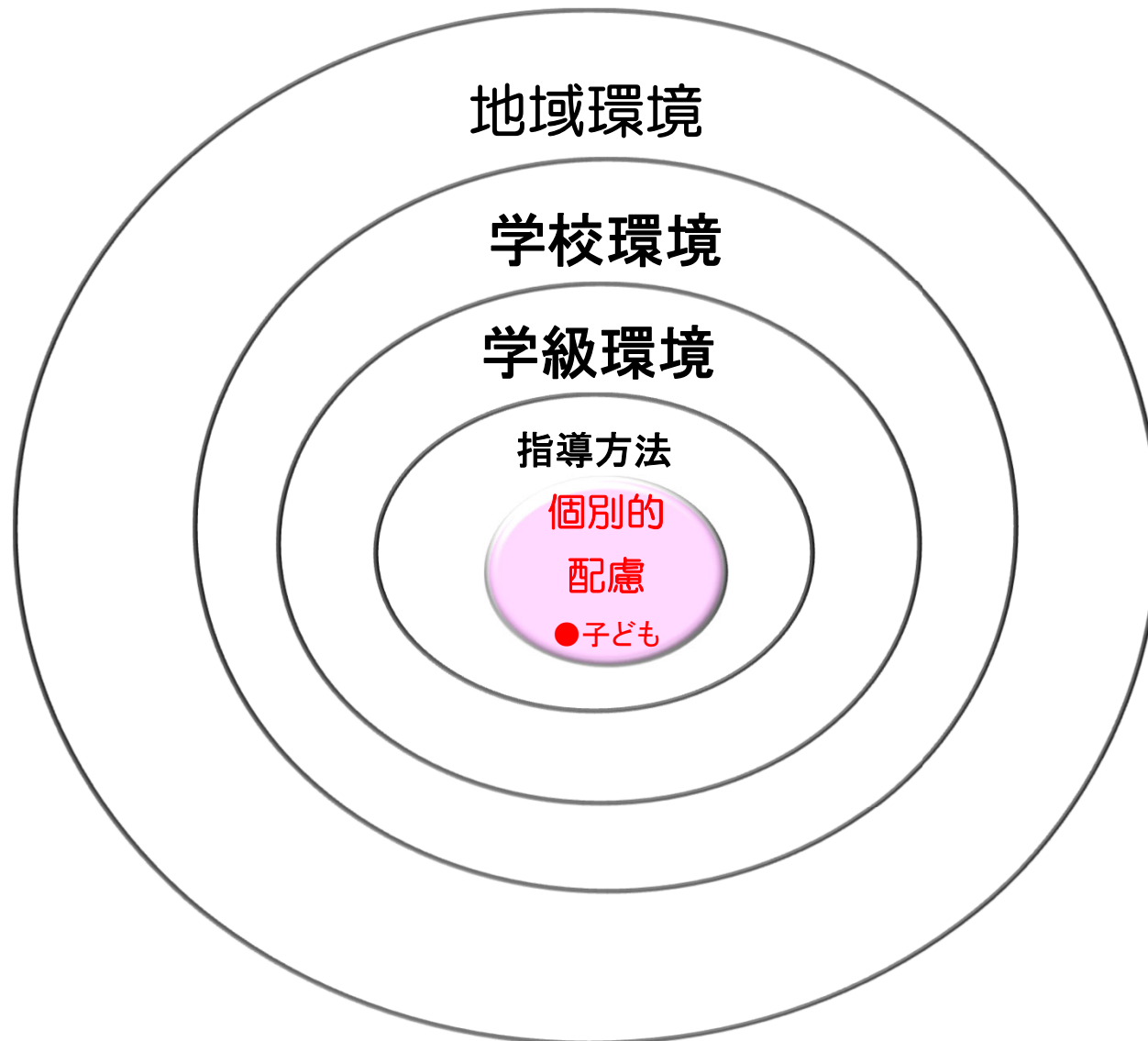
＜展開1＞

考えて理解

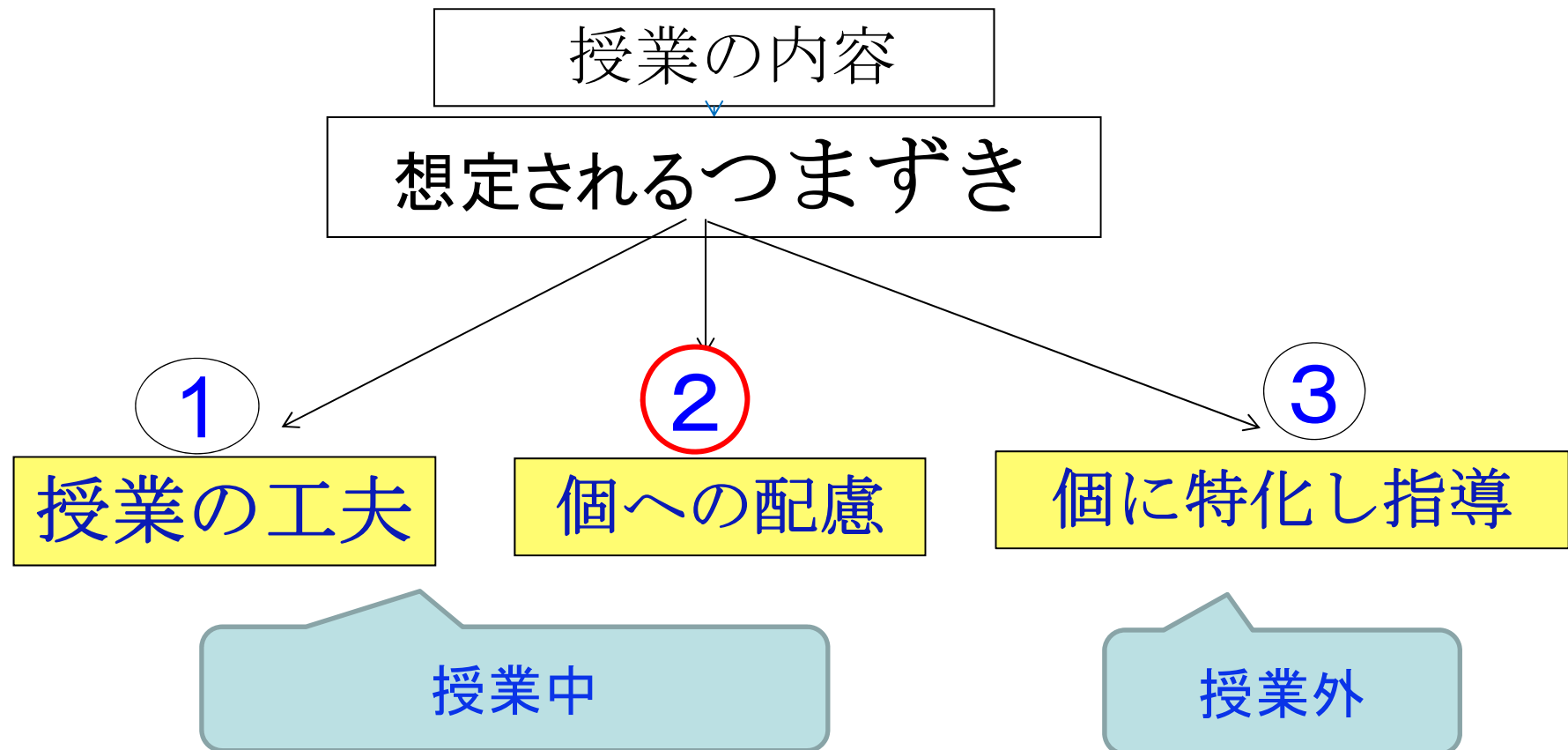
＜導入＞



# 子供が育つインクルーシブな環境 「包み込むモデル」



# 全員を、分かった！楽しい！にする 「授業」の三段構え



## ②授業中の個への配慮

### 全体→個

＜困難さを軽減する教材＞

- ・ふりがなつきの教材(読み)
- ・行を追える下敷き(読み)
- ・ますや行(書き)
- ・ヒントカード・計算器
- ・課題の量の検討



アドバイスを  
を受けやす  
くする工夫



## ②授業中の個への配慮

学び方を配慮

多様性に対応

「教科つまずき解消プロジェクト」の取組

2018, 2019、2020年、3年間の市全体の研究  
新学習指導要領解説に習って

【困難の状態】 【配慮の意図】 【手立て】

【実際の様子】

全教員から1300以上収集

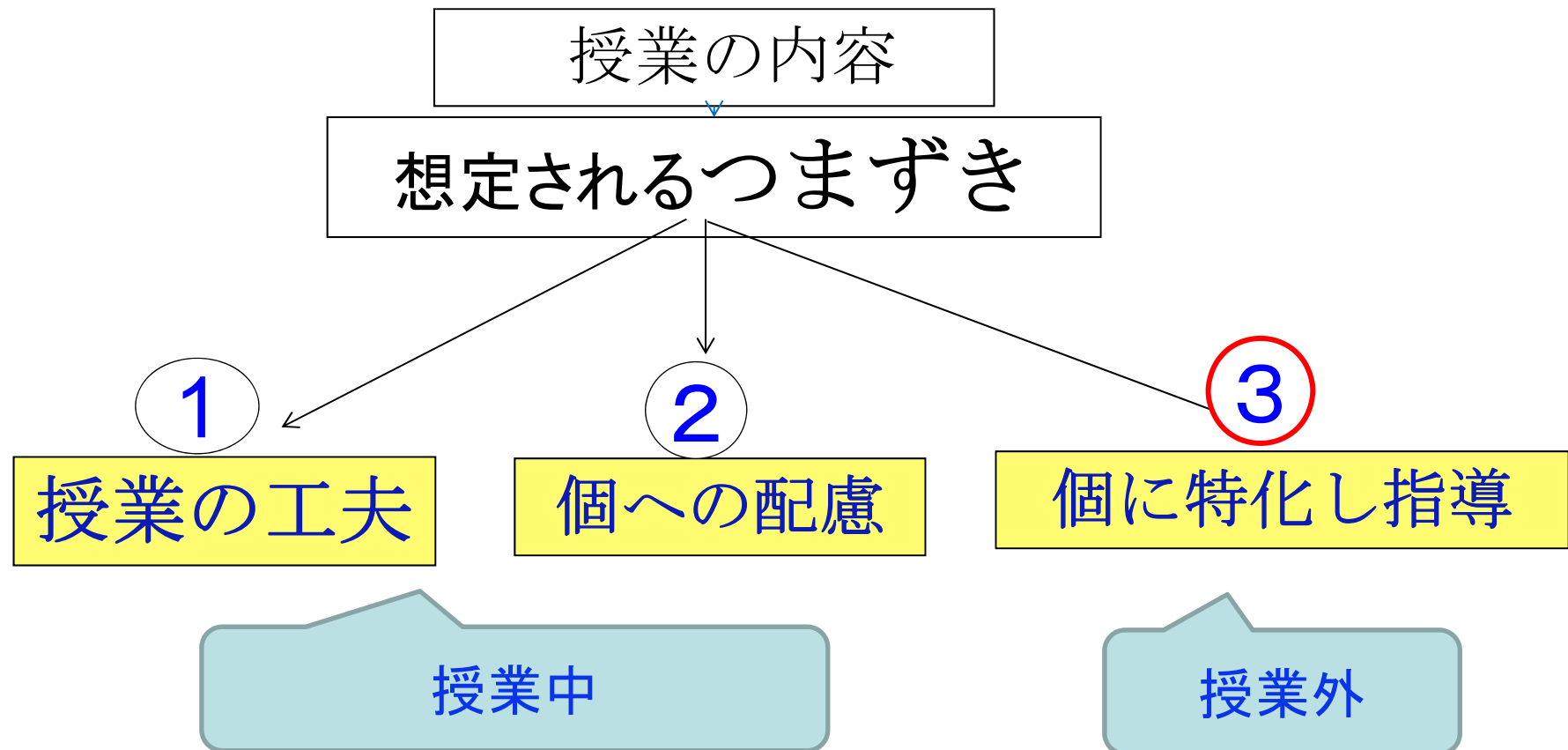


## 「教科つまずき解消プロジェクト」実践事例集一部

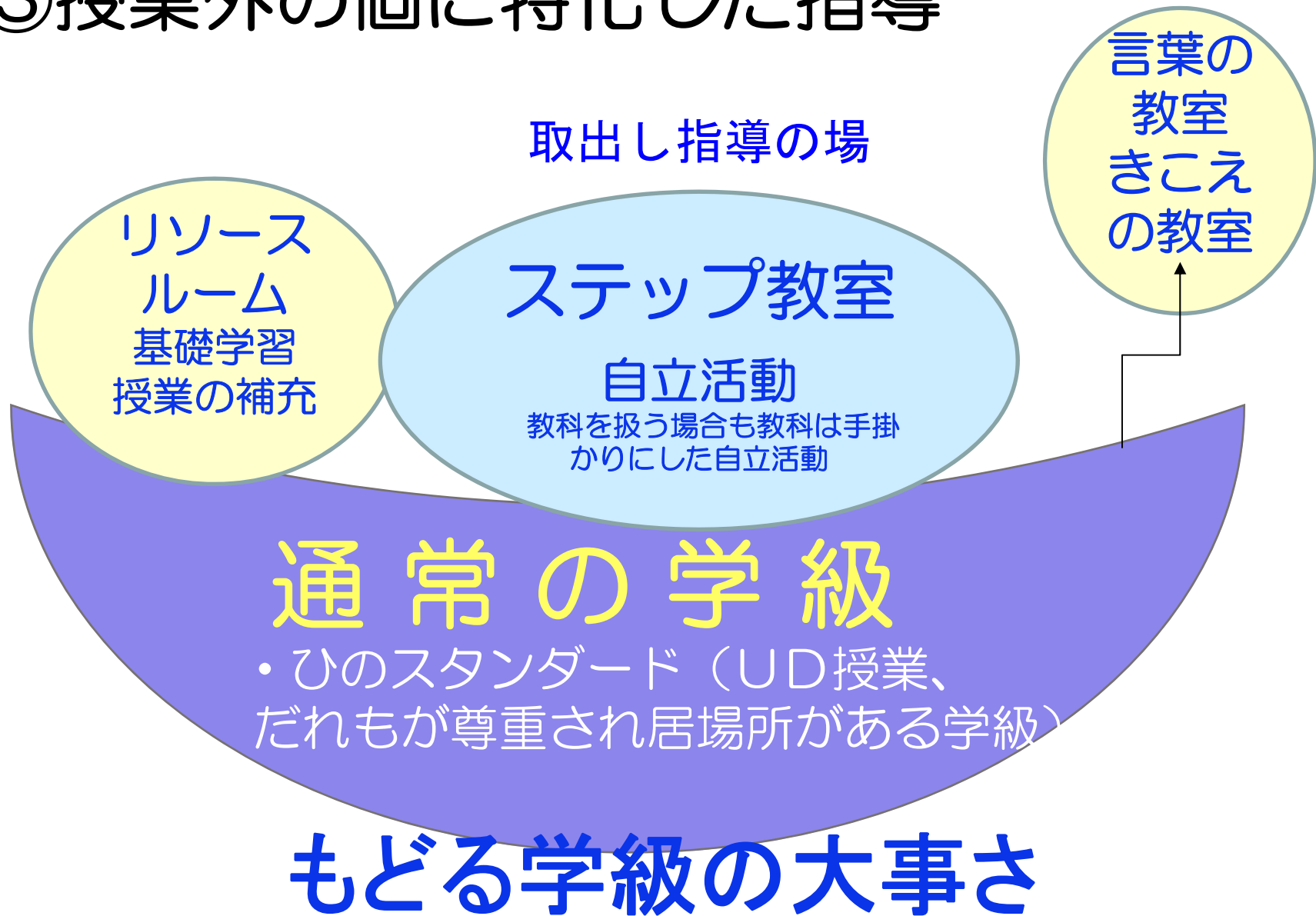
困難な状況	配慮の意図	授業の手立て	実際の様子
<p>学年 小6 教科 家庭科 玉結び</p> <p>手先が不器用で玉結びができない場合には</p>	<p>代替えの方法で対応し、学習の遅れを防ぎ、達成感を得るために</p>	<p>玉結びは縫い目がほどけないようにする役割があることを説明し、代替えの方法としてはじめと終わりに一針返し縫をすることを指導する</p>	<p>学習に取り残される不安から解放され、作品作りに励む姿があった。</p>

困難な状況	配慮の意図	授業の手立て	実際の様子
<p>学年 小5 教科 体育 短距離走・リレー</p> <p>タイミングがつかめずバトンを走りながら受け取ることができない場合には</p>	<p>自分でタイミングをつかめるようにするために</p>	<p>トラックのコーナーにマークコーンを置く。前の走者がどの位置で走り出せばバトンを受け取れるか話し合う。</p>	<p>「10個目のコーンだ。」と具体的に話し合う場面が見られた。視覚的に分かるよう、チーム内で共通理解も図れた。</p>

# 全員を、分かった！楽しい！にする 「授業」の三段構え



### ③授業外の個に特化した指導



H19からスタート市独自の事業として成果

全校にある

**リソースルーム** = 学習の保健室

市で雇用するティチャー

個別の補充指導  
(基礎指導、先取り指導など)

周りの人の**理解**

を促すことに力を注ぐ



## 特別支援教室（全校にある通級指導学級）

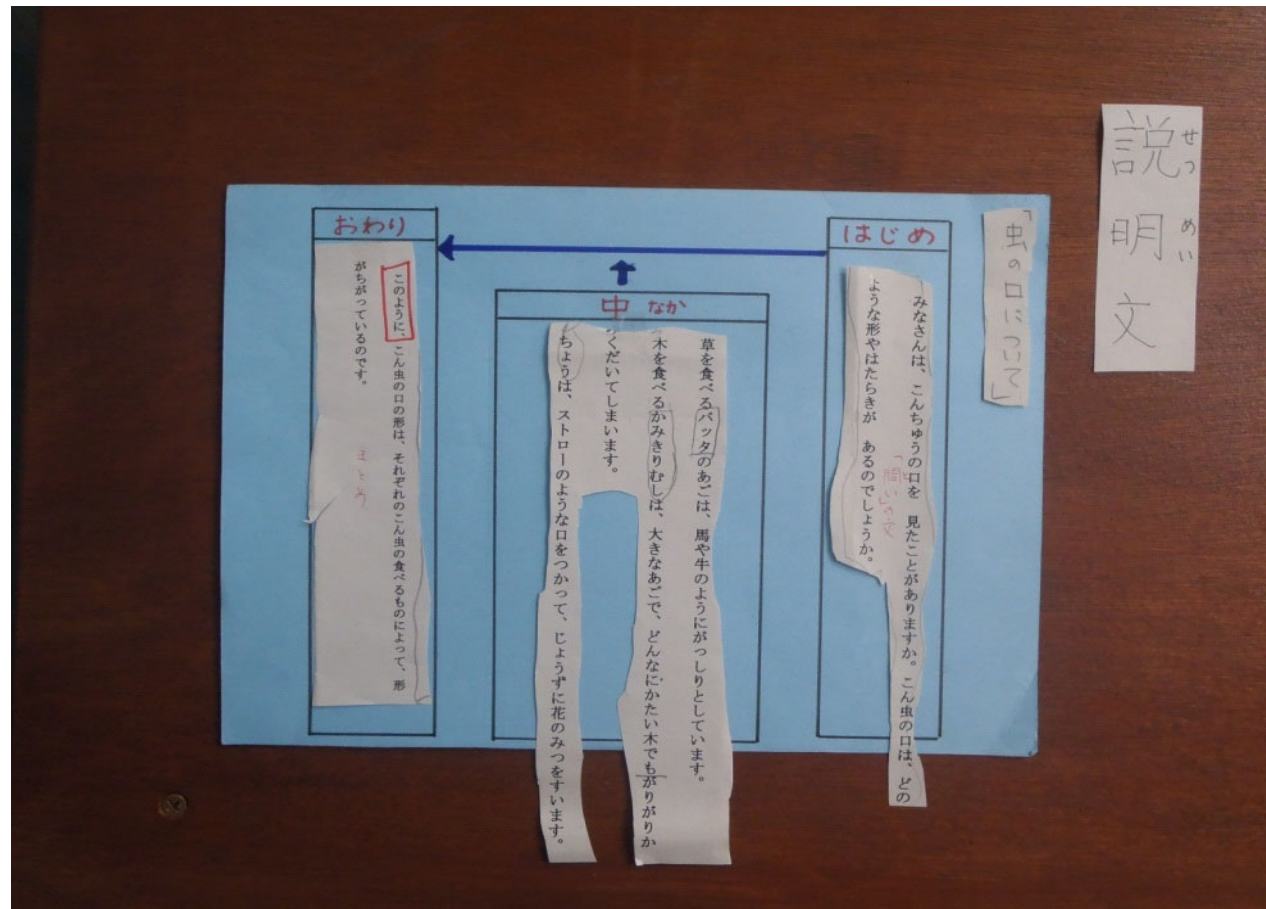
### 指導方針

般化を目指す・成功は通常級に戻ってうまくいくこと  
安心の確保⇒ストレスを乗り越える指導  
ヘルプが出せる 自己理解  
担任と協働の個別の指導計画

### 教員等の連携

共通の職員室 1日勤務で連携強化  
指導計画等をシステムを活用して連携

# ③個に特化し指導 先取り指導が有効だった



# 三段構えでなにをするか

(例)6年生説明文「笑うから楽しい」 ※読み書きが苦手な子供

㊦授業の工夫	㊦個別の配慮	⊗個に特化した指導
<p>○焦点化 3つのタイトルを短冊にして文章の構成を考える。</p> <p>○視覚化 言葉だけでなく図や絵や写真で示したり、実験を体感したり、イメージできるように。</p> <p>○共有化 ペアで相談してから発表</p>	<p>○一人で読む作業の制限、板書を写さないこと、考えることに集中させる。</p>	<p>○補充指導</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・語句の意味の確認</li><li>・小さい短冊にした教材文で音読の練習</li> <li>・中心文を探しマーカー</li><li>・中心文をつなげると要約ができることを指導</li><li>・いつ、どこで、等のカードをもたせ会話のコツを練習</li></ul>

# まとめに

★学びの土台は違いを認め合う

温かな人環境

★多様な学びを尊重する

授業の工夫と多様な学びの場

★将来を視野に



令和2年9月27日（日）

秋田大学教職大学院

第10回あきたの教師力高度化フォーラム

# インクルーシブな学校づくり

インクルーシブ教育実践推進校の実践を通して

神奈川県立橋本高等学校

副校長 竹本弥生

## 【はじめに】 ～自己紹介～

- 高校教員として16年間勤務。
- 養護学校教員として6年間勤務。
- 高校教員として5年間勤務。
- 特別支援学校教頭として1年間勤務。
- 平成29年度より厚木西高校勤務（インクル校）
- 令和2年度より橋本高校勤務（インクル校）
- 取得免許：高等学校教諭（社会科）  
中学校教諭（社会科）  
養護学校教諭

の各教員免許状

# 本日の流れ

- 神奈川におけるインクルーシブ教育
- 高校における特別支援教育の現状
- 通級指導について
- インクルーシブ教育実践推進校
  - 厚木西高校の取組
  - 橋本高校の取組
- 高校における特別支援教育の課題

# 神奈川県における インクルーシブ教育

# 神奈川県教育委員会の取組

## 小中学校での取組

### ＜「みんなの教室」モデル事業＞

障がいのある児童・生徒が、できるだけ通常の学級で学びながら、“必要な時間に適切な指導を受けることができる別の場”で学ぶ仕組みであり、その教室のことを「みんなの教室」といいます。

## 高校での取組

### ＜インクルーシブ教育実践推進校＞

共生社会の実現をめざし、知的障がいのある生徒に、高校教育を受ける機会を広げながら、障がいのある生徒もない生徒も、共に学び相互に理解を深める

世界に一人だけのわたし  
世界に一人だけのあなた

一人ひとり違うみんなが  
共に生き生きと過ごせる学校

みんなが共に学び  
共に育つ学校  
＝インクルーシブな学校

# 平等とは？



# 高校における 特別支援教育の現状



# 1. 特別支援教育の現状

## 特別支援学校中学部及び中学校卒業者の状況－国・公・私立計－

●中学校特別支援学級卒業者の約3分の1が高校等に進学している。

【平成25年3月卒業者】

区 分	卒業者 A	進学者				教育訓練機関等入学者					就職者		社会福祉施設等入所・通所者		その他		
		高校等 人	高等部 人	計 人	B/A %	専修 学校 人	各種 学校 人	職業 能力 開発 人	計 人	C/A %	D 人	D/A %	E 人	E/A %	F 人	F/A %	
特別 支援 学校	視覚障害	197	4	193	197	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	聴覚障害	507	34	472	506	99.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.2
	知的障害	6,957	25	6,812	6,837	98.3	1	1	—	2	0.0	1	0.01	61	0.9	56	0.8
	肢体不自由	1,532	24	1,487	1,511	98.6	—	—	—	—	—	—	—	8	0.5	13	0.8
	病弱	375	141	202	343	91.5	7	2	1	10	2.7	—	—	10	2.7	12	3.2
	計	9,568	228	9,166	9,394	98.2	8	3	1	12	0.1	1	0.01	79	0.8	82	0.9
中 学 校	中学校全体	1,185,054	1,153,930	11,800	1,165,730	98.4	4,078	573	4,651	0.4	4,155	0.35			10,518	0.9	
	うち、中学校特別支援学級	15,993	4,565	10,425	14,990	93.7	325	66	391	2.4	119	0.7			493	3.1	

- ※ ①高校等…高等学校、中等教育学校後期課程の本科・別科及び高等専門学校  
 ②職業能力開発…職業能力開発校、障害者職業能力開発校等  
 ③中学校特別支援学級卒業者その他には、社会福祉施設等入所・通所者を含む。

- ④高等部…特別支援学校高等部本科・別科  
 ④社会福祉施設等入所・通所者…児童福祉施設、障害支援施設等、更正施設、授産施設、医療機関  
 ⑥四捨五入のため、各区分の比率の計は必ずしも100%にならない。

# 特別支援教育の対象の概念図(義務教育段階)

(平成28年5月1日現在)

義務教育段階の全児童生徒数 999万人

減少傾向

## 特別支援学校

視覚障害 知的障害 病弱・身体虚弱  
聴覚障害 肢体不自由

H17年比で1.3倍

0.71%  
(約7万1千人)

## 小学校・中学校

### 特別支援学級

視覚障害 肢体不自由 自閉症・情緒障害  
聴覚障害 病弱・身体虚弱  
知的障害 言語障害

H17年比で2.3倍

2.18%  
(約21万8千人)

(特別支援学級に在籍する学校教育法施行令第22条の3に該当する者：約1万8千人) ※平成27年5月1日現在

3.88%  
(約38万7千人)

増加傾向

### 通常の学級

#### 通級による指導

視覚障害 肢体不自由 自閉症  
聴覚障害 病弱・身体虚弱 学習障害(LD)  
言語障害 情緒障害 注意欠陥多動性障害(ADHD)

H17年比で2.3倍

0.98%  
(約9万8千人)

発達障害(LD・ADHD・高機能自閉症等)の可能性のある児童生徒：6.5%程度\*の在籍率

※この数値は、平成24年に文部科学省が行った調査において、学級担任を含む複数の教員により判断された回答に基づくものであり、医師の診断によるものでない。

(通常の学級に在籍する学校教育法施行令第22条の3に該当する者：約2,100人(うち通級：約250人)) ※平成27年5月1日現在

# 発達障害等困難のある生徒の中学校卒業後における進路に関する分析結果

課程別		学科別	
全日制	1.8%	普通科	2.0%
定時制	14.1%	専門学科	2.6%
通信制	15.7%	総合学科	3.6%

文部科学省「発達障害等困難のある生徒の中学校卒業後における進路に関する分析結果 概要（平成21年3月時点）」より引用

すべての課程と学科に在籍している  
高校進学者全体に対する割合は約2.2%

通級指導について

# 高等学校における通級による指導 平成28年12月学校教育法施行規則改正 (平成30年度から)

## 背景

○中学校において通級における指導を受けている生徒の増加

(H28には98311人・・・・・・・・)

10年前に比較して2.4倍に増加)



○「インクルーシブ教育システム」の理念をふまえ、  
高校においても適切に特別支援教育が実施されるよう  
多様な学びの場の整備が必要

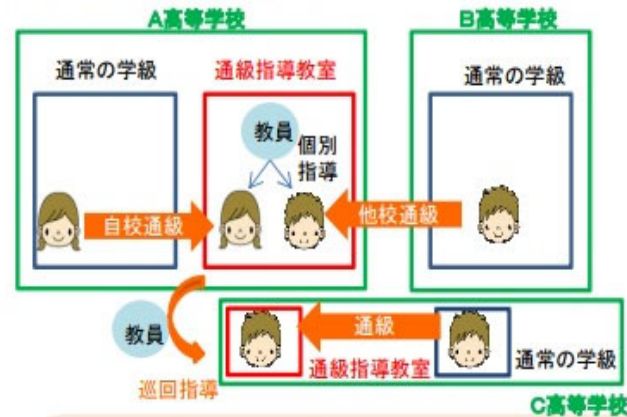
## 高等学校における通級による指導の制度化の概要

小・中学校等においては、通常の学級に在籍し、大半の授業を通常の学級で受けつつ、障害による学習上・生活上の困難を主体的に改善・克服するために受ける「通級による指導」が制度化されているが、高等学校段階においても同様の指導を行うことができるニーズが高まっているところ。本制度改正はこうしたニーズに対応するものである。

●通級による指導等を受けている児童生徒数

	平成5年度	平成27年度
小学校	11,963人	80,768人
中学校	296人	9,502人

●通級による指導の実施形態



●加える場合の例（授業時数が増加する）

各学科に共通する 必修教科・科目 (31単位)	総合的な学習 の時間 (3単位)	選択教科・科目 (41単位)	障害に応じた 特別の指導	特別活動
-------------------------------	------------------------	-------------------	-----------------	------

●替える場合の例（授業時数が増加しない）

各学科に共通する 必修教科・科目 (31単位)	総合的な学習 の時間 (3単位)	選択教科・科目 (41単位)	障害に応じた 特別の指導	特別活動
-------------------------------	------------------------	-------------------	-----------------	------

※障害に応じた特別の指導：年間7単位まで

### 省令等の改正

（公布：平成28年12月9日、  
施行：平成30年4月1日）

①省令（学校教育法施行規則）の改正

- ・高等学校で障害に応じた特別の指導を行う必要がある者（※1）を教育する場合、**特別の教育課程**によることができる

（※1）言語障害、自閉症、情緒障害、弱視、難聴、LD、ADHD、肢体不自由、病弱及び身体虚弱（小・中学校と同様）

②告示の改正

- ・障害に応じた特別の指導を**高等学校の教育課程に加え、又は選択教科・科目の一部に替える**ことができる

- ・障害に応じた特別の指導に係る修得単位数を、**年間7単位**（※2）を超えない範囲で卒業認定単位に含めることができる

（※2）中学校の時数と同程度

- ・小・中学校も含めた障害に応じた特別の指導の内容に係る規定の**趣旨を明確化**（※3）

（※3）従来は「障害の状態に応じて各教科の内容：補充するための特別の指導を含む」と定められていたところ、**障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服**という本来の目的に照らし、**障害の状態に応じて各教科の内容を取り扱いながら行うことができる趣旨**であることを明確化

# 通級による指導とは？

- 通常の学級に在籍し、大半の授業を学級で受けつつ、障がいによる学習上・生活上の困難のある児童・生徒に対し、主体的に改善・克服するために行う特別の指導（「自立活動」）である。
- 自立活動とは
  - 特別支援学校学習指導要領に位置づけ
  - 6区分26項目の内容から個別の状況に応じて選択
- 年間7単位以内
  - （LD、ADHDは月に1～8単位時間）
- 小中学校は13人に1人の教員を措置

# 「自立活動」の目標

○個々の児童または生徒が自立を目指し、障がいによる学習上または生活上の困難を主体的に改善克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

## ○通級指導の形態

- 自校通級 → 保土ヶ谷高校  
綾瀬西高校  
生田東高校
- 他校通級 → 横浜修悠館



# 通級の障害種 (知的障害をのぞく)

- 言語障害
- 自閉症
- 情緒障害
- 弱視
- 難聴
- LD (学習障害)
- ADHD (注意欠陥多動性障害)
- 肢体不自由
- 病弱
- 身体虚弱

文部科学省の研究指定  
「高等学校における個々の能力・  
才能を伸ばす特別支援教育」  
(高校における通級指導の研究)

- H26~H28 全国で指定
- H29 追加事業13校
- 神奈川県立綾瀬西高等学校  
(H25・26国立特別支援教育総合研究所)

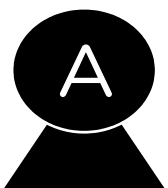
# 綾瀬西高校での 特例「自立活動」の設定

2年 通常 科目	10 単 位	通級指導 (領域) 8+(2)単位	3年 通常 科目	8 単 位	通級指導 (領域) 8単位
コミ英Ⅱ	4	リベラルベーシックⅠ	コミ英Ⅲ	4	リベラルベーシックⅡ
数学A	2	コミュニケーションⅠ	自選A	2	コミュニケーションⅡ
古典A	2	ソーシャルスタディⅠ	自選B	2	社会参加 社会福祉体験
課外等	(2)	社会参加 社会福祉体験			

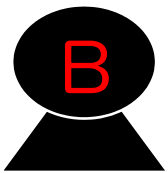
1年必修科目に手を付けない

# 通級個別指導の内容

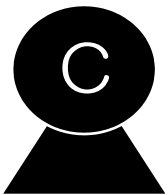
(生徒一人ひとり異なる)



- 学習のつまずきが大きい 一斉授業×
- 特に英語のつまずきが大きい



- 学習のつまずきが大きい 福祉に興味
- 友達間コミュニケーションに難しさがある



- 発達障害の診断あり \*成績は優良
- コミュニケーションに難しさがある

	リベラル ベーシック④	コミュニ ケーション②	ソーシヤル スタディ②	社会体験 夏季等
A	○	—	—	—
B	○	○	○	○
C	—	—	○	○

# 「リベラルベーシックⅠ」

国①・数②・英①の基礎の振り返りなどを通して

学習方法を獲得する 自己特性認知領域

- 通常の学習における自分の「苦手なパターン」に気づく  
同時に、「得意なパターン」を意識できるようにする
  - 自立に向け、日常生活や判断が求められる場面で必要とされる基礎的知識とは何か、気づくようにする
- \* 自己理解深める → これなら分かる ここがダメ
- \* 安心感・自己肯定感を育む → 対話型 肯定発問 適速
- \* 自立を図るために必要な知識の自覚的な習得
- 「共に学び共に育つ教育」 → 教職員も学ぶ！

# 「コミュニケーションI」

良好な人間関係形成に向けての取組

- 自己理解を深めるとともに、対人スキルを学ぶことで、周囲と良好な人間関係を築くことができる

\* 自己理解を深める → 苦手なこと 得意なこと

\* 落ち着きと自己肯定感を育む → 受容型会話

\* 自立を図るために必要な態度、習慣の育成SST

聞く大切さ / 上手な伝え方 / 表情を読む

● 共に学び共に育つ教育 教員の喜び

生徒の笑顔初めて見た！生徒が起きてくれた！

# ソーシャルスタディ I の実践

## 社会体験を通し、自己の進路を考える取組

- 様々な場所で体験的授業を行うことで、社会性を身につけ、自分の将来について考える力を養う

\* 自己理解を深める → 「仕事」理解の整理

\* 自己肯定感を育む → 認めてもらうこととは

\* 自立を図るために必要な技能の育成

校内清掃やってみよう インターンシップ

### ● 共に学び共に育つ教育

→ モデリング、スモールステップのスキル

# 高校教員文化は変わるか (職員対象アンケートより)

## 第1回研修会 自由記述部分 学校づくり

- 普通高校は上級学校進学を目指すコースだ  
と思う。支援教育は、特別支援学級や特別  
支援学校で行うものだと思う。

## 第5回研修会 自由記述部分

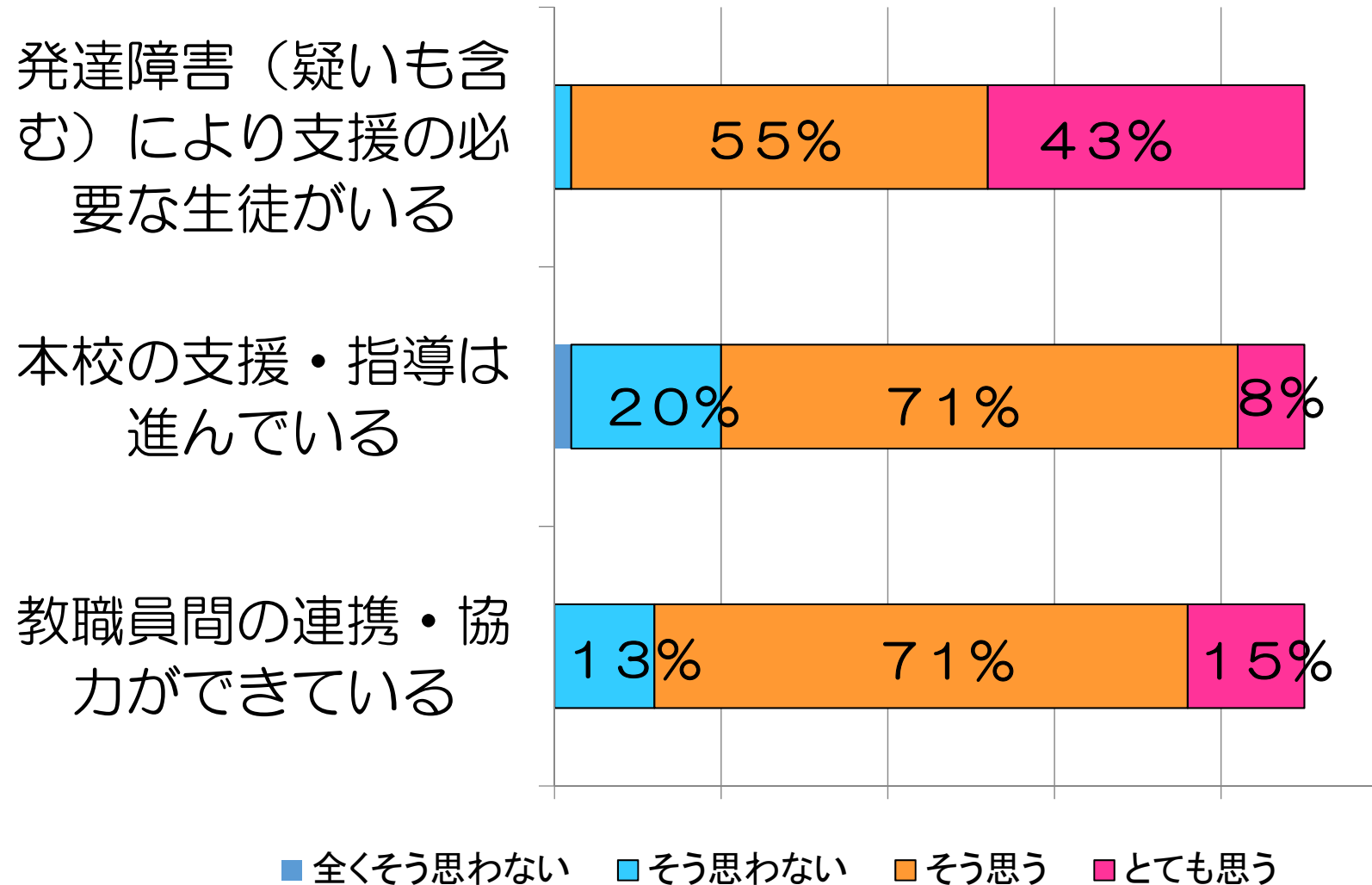
- 「支援教育」と言われると壁を感じるが、  
実際の生徒への対応事例を聞くと少しの工  
夫で良いことがわかり納得した。

## 個別卒業式実施後 合理的配慮の理解



# 教職員の意識・理解の変化

平成27年度第1回アンケート結果より



インクルーシブ教育  
実践推進校  
厚木西高校の取組み

## 2. 障害者の権利に関する条約への対応

### ○インクルーシブ教育システムについて(中教審初中分科会報告(H24.7)より)

#### 【インクルーシブ教育システム】

○ 障害者権利条約によれば、インクルーシブ教育システムとは、人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な機能等を最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が一般的な教育制度から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされている。

- 共生社会の形成に向けて、障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念が重要であり、その構築のため、特別支援教育を着実に進めていく必要があると考える。
- インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが必要である。小中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性ある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要である。
- 基本的な方向性としては、障害のある子どもと障害のない子どもが、できるだけ同じ場で共に学ぶことを目指すべきである。その場合には、それぞれの子どもが、授業内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身につけていけるかどうか、これが最も本質的な視点であり、そのための環境整備が必要である。

# 生徒一人ひとりの適性に応じた 進路指導が重要！

## 県立学校

- 全日制（クリエイティブスクール等）
- 定時制（夜間、昼間、フレキシブル）
- 通信制（厚木清南、横浜修悠館）
- 特別支援学校高等部本校
- 特別支援学校高等部分教室（県内20校）

## 私立学校

- フリースクール
- 広域通信制

+

インクルーシブ教育実践推進校

# 【インクルーシブ教育実践推進校について】

- 実践推進校（パイロット校）とは

平成28年度から始まった県立高校改革において、知的障がいのある生徒が高校教育を受ける機会を拡大するため、インクルーシブ教育実践推進校を3校（茅ヶ崎高校、厚木西高校、足柄高校）指定し、平成29年4月、連携募集により各学校に生徒が入学しました。最初に指定された3校をパイロット校と呼んでいます。



平成29年度は15名、平成30年度は19名、平成31年度は21名が  
令和2年度には12名が、厚木西高校に入学しました。

- ・中高連携事業参加から入学者選抜まで

< 志願資格 >

特別募集による入学選抜（面接試験のみ）  
定員21名

指定地域の中学校に在籍し、知的障がいがある生徒

- ア 学級集団での学習及び生活が可能な生徒
- イ 学校生活において、原則として医療ケア等を要さない生徒
- ウ 公共交通機関等を利用して、自力での通学や校外における学習活動への参加が可能な生徒
- エ 志願先の高校が実施する中高連携事業に参加するなど、入学の意欲のある生徒
- オ 入学後、将来の自立に向けて、学校生活に積極的に取り組む意欲のある生徒



出願・入学者選抜

# 【中高連携事業について】

- 概略

中高連携事業とは、  
「パイロット校はどんな学校なのか」、  
「どんな授業を受けるのか」、  
「どんな行事が行われるのか」、  
などについて、理解を深めながら  
志願の検討をしてもらうための取組です。



- |          |  |
|----------|--|
| 1. 学校説明会 | } 中学3年生5月から9月まで<br>3種類の各事業にそれぞれ<br>参加する。 |
| 2. 授業見学会 |  |
| 3. 学校行事  |  |

# 平成31年度入学生 教育課程

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	共通	国語総合			現代社会		数学Ⅰ		職業Ⅰ		物理基礎		生物基礎		体育		保健		美術Ⅰ 音楽Ⅰ		C英Ⅰ		英語表現Ⅰ		家庭基礎		社会と情報		総合学習	LHR			
	文理	現代文B		世界史A		古典B		数学Ⅱ		日本史B		化学基礎		体育		保健		C英Ⅱ		英語表現Ⅱ		職業Ⅱ		総合学習	LHR								
3年	文	現代文B		発展古典		政治経済		世界史B 地理B 日本史特論		体育		C英Ⅲ		英語表現Ⅱ		職業Ⅲ		自由選択科目		総合学習	LHR												
	理Ⅰ	現代文B	日本史A	数学Ⅲ			化学 物理発展 生物発展																										
	理Ⅱ	現代文B	日本史A	政経	数学概論																												



## <インクルーシブ教育に係るカリキュラムの編成>

- 学校設定科目と学校設定教科

教科: 職業

科目: 職業と生き方 (I、II、III)

- 総合的な学習の時間

全体で行う「総合」以外の時間を設定

主に「PC検定」向け実技指導

- インターンシップ

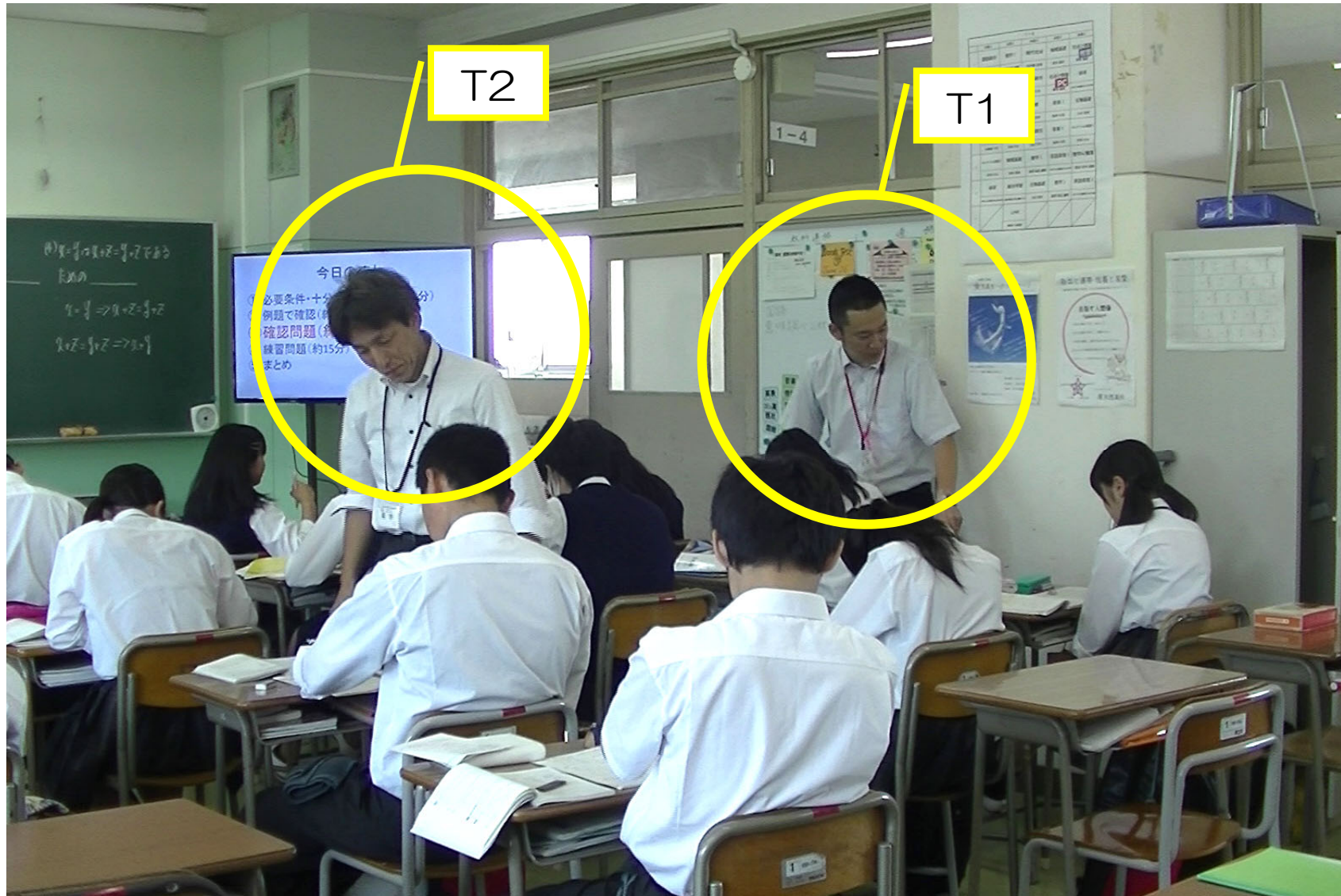
夏季休業中に1単位(5日間)の職業体験を実施  
(学校外における学修の単位として認定)

# <キャリア教育について>

- 学校設定教科「職業と生き方」の実施
  - ビジネスマナーに関する内容
  - 職業に関する実技実践（清掃技能、PC実技）
  - 福祉制度に関する内容
  - 進路実現に関する内容
- インターンシップの取組

29年度	1年生15名	}	8企業・事業所
30年度	1年生15名 2年生19名		21企業・事業所
元年度	1年生21名 2年生18名	}	24企業・事業所
- 総合的な学習の時間でのキャリア教育

# 〈チームティーチングでの授業〉 数学



# 総合的学習の時間 1年生

(7クラス8展開)

↓ インターンシップ事前学習



↑ PC実習



# 〈職業と生き方〉

I

(2クラス3展開)



↑ ビジネスマナーに関する授業

↓ 清掃技能に関する実習



# — インターンシップ 厚木市内8企業・事業所で実施



↑ 老人介護施設

↓ ドラッグストア



# 教材

ポイント

予習が効果的

見通し

視覚的

⇒ 通常の生徒にも効果的

⇒ 授業改善

# 国語総合 「児のそら寝」の冒頭で





児ちごのそら寝ね — 『宇治拾遺物語ものがたり』より

- ① 今いまは昔むかし、比叡ひえいの山やまに児ちごありけり。
- ② 僧そうたち、宵よいのつれづれに、「いざ、かいもちひせむ。」と言いひけるを、
- ③ この児ちご、心こころ寄せに聞ききけり。
- ④ さりとて、し出いださむを待まちて寝ねざらむも、わろかりなむと思おもひて、
- ⑤ 片方かたに寄よりて、寝ねたるよしにて、出いで来くるを待まちけるに、
- ⑥ すでにし出いだしたるさまにて、ひしめき合あひたり。
- ⑦ この児ちご、さだめておどろかさむずらむと、待まちゐるるに、
- ⑧ 僧そうの、「もの申もうしきふらはむ。おどろかせたまへ。」と言いふを、
- ⑨ うれしとは思おもへども、ただ一いち度どにいらへむも、待まちけるかともぞ思おもふとて、
- ⑩ いま一ひと声こえ呼よばれていらへむと、念ねんじて寝ねたるほどに、
- ⑪ 「や、な起おこしたてまつりそ。
- ⑫ をさなき人ひとは、寝ね入りたまひにけり。」
- ⑬ と言いふ声こえのしければ、
- ⑭ あな、わびしと思おもひて、いま一いち度ど起おこせかしと、思おもひ寝ねに聞きけば、
- ⑮ ひしひしと、ただ食くひに食くふ音おとのしければ、すべなくて、
- ⑯ 無む期のごのちに、「えい。」といらへたりければ、
- ⑰ 僧そうたち笑わらふこと限かぎりなし。

家庭基礎

にく スーミータン  
肉まん・粟米湯 (中華風コーンスープ)

実習のねらい

- ①小麦粉（薄力粉）の性質を知る
- ②蒸し器の使い方を知る
- ③とろみの付けたスープの作り方を知る。

本来は、イーストを使って生地を発酵させますが、今回は手軽にできるよう、ベーキングパウダーを使います。

にく  
肉まん

ざいりょう (5こぶん) g 材料 (5個分) g			
かわ 皮 はくりきこ 薄力粉	200	く 貝 ぶたひ 豚挽き肉	100
ベーキングパウダー	小さじ2	しお 塩	小さじ1/2
ぬるま湯	100	ほ 干しいたけ	1枚
サラダ油	大さじ1	たけのこ (水煮)	30
砂糖	大さじ1	ねぎ	20
塩	小さじ 1/4	オイスターソース	小さじ1/2
		さけ 酒	小さじ1
		しょうゆ	大さじ1
		ごま油	小さじ1
		こしょう	適宜

1年生保健  
18.日常的な  
応急手当

## 日常的な応急手当

### この時間の目標

- 日常的なけがの応急手当の手順や方法を説明できる。
- 熱中症の応急手当の手順や方法を説明できる。

# 「花は咲く」

歌唱：音楽Ⅲ、美術Ⅲ

イメージ画：音楽Ⅲ、美術Ⅲ



# 職業と生き方Ⅲ 連携募集生徒が後輩へ

3年生が2年生に向けてのメッセージ

「勉強を頑張りましょう」

⇒ 教科書

定期テスト

私の反省 成長期にある知的障がいの  
ある生徒の伸びしろ



# 部活動の連携募集生徒加入状況

	卓球	バドミントン	陸上	テニス	ダンス	ソフトテニス	弓道	山岳	野球	剣道	演劇	軽音	茶道	写真	自然科学	天文	吹奏楽	工学研究	美術	家庭	文芸	
1年	3	2	1		1	1					1	1	2	1	1	1		2	2			
2年		2	2	1			1	1	1			1		1							1	
3年										1	2		1				1		1			2

各種大会等に参加  
夏季休業中の合宿に参加



# • 厚木西高校における配慮と支援（具体例）

## 1. 障害者差別解消法に基づく「合理的配慮」の理解

（毎年、職員研修で実施）

### 【基本的な考え方】

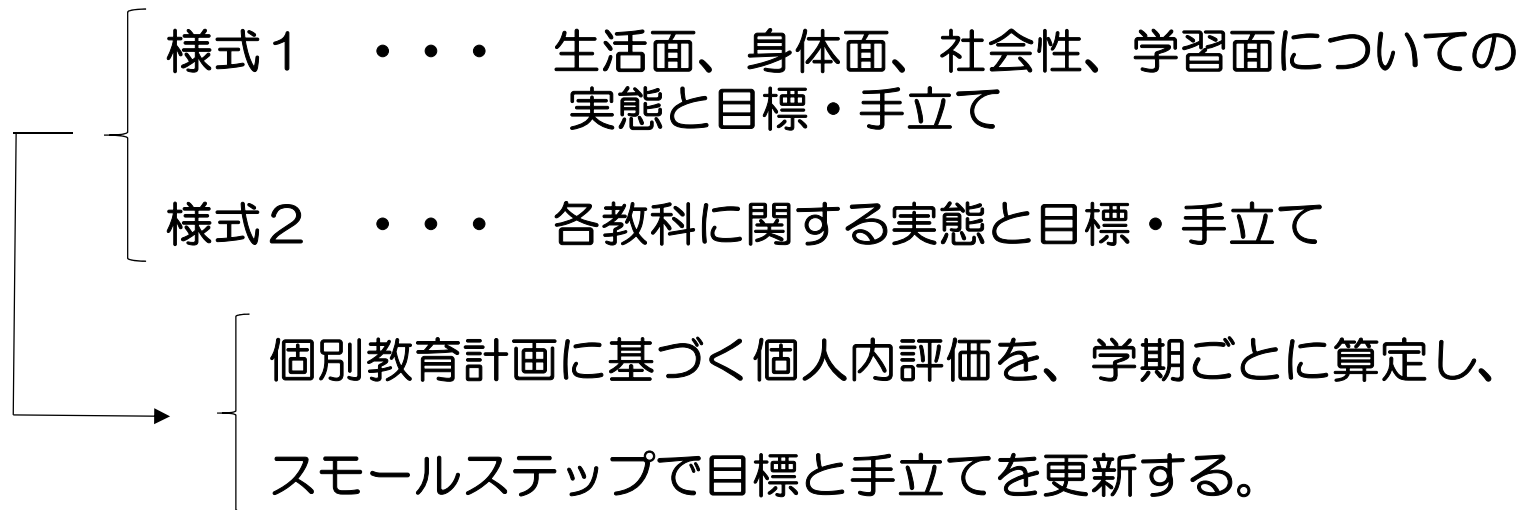
- ① 社会的障壁除去に関する申し出があること
- ② 実施に伴う負担が過重ではないこと
- ③ 社会的障壁の除去の実施を積極的に努めること

### 【申し出の方法】

- 「言語、手話、点字、拡大文字、筆談、実物の提示、身振りサイン等による合図、触覚による意思伝達、通訳を介するもの」等を含める。
- 本人の意思表示が困難な場合は、家族、介助者、コミュニケーション支援員等を介しての意思表示を含む。
- **意思の表示がない場合でも、当該障害者が社会的障壁の除去を必要としていることが明白な場合は、自主的に取り組む。**

（神奈川県教育委員会における障害を理由とする差別の  
解消の推進に関する対応要領に係る留意事項 第5の3）

## 2. 個別教育計画の作成



## 3. 授業における配慮と支援

- 授業中のiPad等タブレット機器の使用 . . . 申請・許可
- 教材の工夫 . . . ルビ・拡大・別課題等
- 視覚的な授業 . . . プロジェクター、モニター、実物投影機等の利用

#### 4. 地域サポーターによる昼休みの支援

各学年にリソースルームを完備

昼休みの居場所として利用することができる

#### 5. 職業アセスメントの実施とキャリア教育

総合教育センターでアセスメントを実施

1・2年生の夏休みに5日間のインターンシップを実施  
(ジョブマッチング)

- 「34期新入生の声」アンケートより（連携募集入学生徒）

Q1. なぜ厚木西高校を選びましたか？

私は9月くらいで厚木西高校に入ろうと決めました。  
そのきっかけとなったのが厚木西高校吹奏楽部の演奏でした

体育祭、文化祭などがかっこよくて、難しいこともここで学べばわかるかな、と思って選びました。

体育祭の時、先輩の協力を見て僕もやってみたいと思いました。  
ダンスなどがすごくてびっくりしたので橋本に入りました。

4～5月前半くらいに連携募集のプリントに西高がのっていて、また中学の先生が勧めてくれたので連携事業に参加しました。

インクルーシブ教育推進校の中でも、特に家が近かったというのと、自分の力に合っていると思い、志望しました。

- 「34期新入生の声」アンケートより（連携募集入学生徒）

Q2. 西校生活はどうか？

もちろん高校生なので、急に忙しくなったり大変なこともあったりしますが、それと同じぐらい楽しいこともいっぱい見つかります。

今は英・数・理が苦手で全く追いつけません。けど、クラスはすごく楽しいです。そして、部活も。

楽しいです。先輩方や先生方も優しく校舎はきれいで部活動はたくさんあるので充実していて楽しいです。

友達関係もよく先生もみんな優しくて部活もとても楽しいです。

スゴ〜く楽しいです。毎日が楽しく、クラスメイトも優しいので、西校に来て本当に良かったと思います。

## 34期連携募集生徒の進路状況(11月末 現在)

進路希望先	人数	状況	その他
進学(大学・専門学校)	3 (大学1 専門2)	大学1,専門1は決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴見大学</li> <li>・横浜システム 工学院専門学校</li> </ul>
職業訓練機関 障害者職業能力開発校	1	決定 1	所在地 相模原市南区
職業訓練機関 神奈川能力開発センター	3	決定 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター:伊勢原市日向</li> <li>※ 通勤寮:秦野市</li> </ul>
就労移行支援事業所	2	決定 1, 12月実習 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆたかカレッジ</li> <li>・ワークショップフレンド</li> </ul>
就職(障害者枠含む)	6	内定 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護1 ・物流1</li> <li>・特例子会社1</li> </ul>
	計 15 名		



# 生徒対象インクルーシブ研修会

- H29 「厚木西高校のこんなところがわかりにくい」  
十文字学園女子大学
- H30 「インクルージョン&ダイバシティ」  
日産自動車社員
- H31 「7本指のピアノコンサート」  
西川悟平氏  
「インクルーシブって？」  
神奈川県インクルーシブ教育推進課



## 【職員研修について】

インクルーシブ教育に係る職員研修は、年間で3～4回行われます。  
平成29年度は4回の研修を行いました。

1. 4月4日（火） 連携募集生徒に対する配慮事項と  
個別教育計画の作成について  
（講師：インクルG）
2. 7月24日（火） 学習内容を、わかりやすく手直しするための方法  
～高等学校におけるTTと教材作成のヒント～  
（講師：鹿沼市立みなみ小学校教諭 富永由紀子 先生）
3. 10月16日（月） 映画上映「みんなの学校」、グループダイアログ  
日産自動車との合同研修会①  
地域や近隣の企業・学校と連携した地域ぐるみの研修会
4. 12月26日（火） 「みんなの学校」講演会  
「みんなの学校」が教えてくれたこと  
日産自動車との合同研修会②  
（講師：元大阪市立大空小学校校長 木村泰子 先生）

## 【生徒の実態の概要と課題】

### <実態>

1. 軽度知的障がいがあり、B2程度の生徒。
2. コミュニケーション面での課題がある生徒も多い。
3. 連携募集生徒間での学力の差は大きい。
4. 高校生である自覚を持ち生活をしているが、その分悩みも抱えている。

### <課題>

1. 手帳を持たない生徒の就労支援が難しい。
2. 多様な障害種（併せ持った障がい）に対応する支援が難しい。
3. 入学した15人中9人が中学校では支援級に在籍していたため、通常級での授業やテストの経験が少ない。
4. 自己肯定感の低さが「あきらめ」となっている事が多い。

インクルーシブ教育実践  
推進校  
橋本高校の取組み

# 橋本高校の概要

- 昭和53年4月1日開校（今年43年目）
- 全日制 普通科
- 3学期制 50分授業
- インクルーシブ教育実践推進校特別募集
- 在県外国人等特別募集
- 相模原養護学校「橋本分教室」

# 教育課程

- 1 学年（一般募集：令和2年度）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	計
		国語総合			世界史A		数学1		数学A		化学基礎		体育		保健		芸術		英語1	コミュニケーション		英語表現1		家庭基礎		生物基礎		総合…時間	「E」	30

※1 黒字は学習指導要領上の必修科目

- 1 学年（連携生：令和2年度）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	計
		国語総合			世界史A		数学1		キャリアプランニング		化学基礎		体育		保健		芸術		英語1	コミュニケーション		英語表現1		家庭基礎		生物基礎		総合…時間	「E」	30 + 1 ※3

※2 キャリアプランニング…キャリア教育、SST、実践力を養うための実技実習（PC）等 2単位

※3 夏季休業中のインターンシップあり（選択1単位） ※4 必修科目は履修する

時間割例  
(1年生)

1年〇組 時間割						
	時間帯	月	火	水	木	金
EES	8:40~8:50	国語	英語 (Listening)	社会	英語 (文法問題)	数学
HR	8:50~9:00					
1	9:00~9:50	家庭基礎	生物基礎	体育	数学A	国語総合
2	10:00~10:50	数学 I	コミュニケーション 英語 I	数学A	化学基礎	体育
3	11:00~11:50	国語総合	世界史A	家庭基礎	数学 I	保健
4	12:00~12:50	剣道・居合	英語表現 I	国語総合	美術 I	世界史A
昼休み	12:50~13:40					
5	13:40~14:30	生物基礎	数学 I	英語表現 I	コミュニケーション 英語 I	コミュニケーション 英語 I
6	14:40~15:30	LHR	美術 I	世界史A	国語総合	化学基礎
7	15:40~16:30	/	/	/	総合	/
帰りHR						

# クラス編成

- 2・3年生（2年生は7クラス、3年生は8クラス 表示は3年生）

クラス	1	2	3	4	5	6	7	8	合計
一般募集	35	38	39	40	40	39	40	28	299
在県募集	4	1				1		7	13
合計	39	39	39	40	40	40	40	35	312

- 1年生（8クラス 一般268名 在県10名 インクル14名）

クラス	1	2	3	4	5	6	7	8	合計
一般募集	33	33	33	33	33	33	35	35	268
在県募集							5	5	10
ｲﾝｸﾙ募集	2	2	2	3	2	3			14
合計	35	35	35	36	35	36	40	40	292

（注1）在県募集…在県外国人等特別募集 インクル募集…インクルーシブ教育実践推進校特別募集

（注2）2・3年生は担任+副担任 1年生は担任+副担任+支援担任

# 授業風景



- ① ワット タイム トゥ ユー-ゲット アップ?
- ② ハウ マニ- イズ イット?
- ③ ハウ トゥ ユー-カム?
- ④ ハウ ロング-ダ-ズ イット テイク?
- ⑤ ワット トゥ ユー-レック アbout?



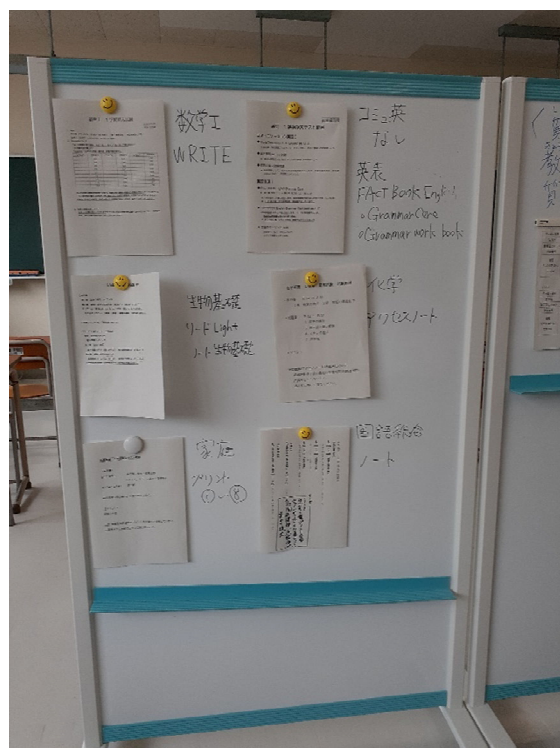
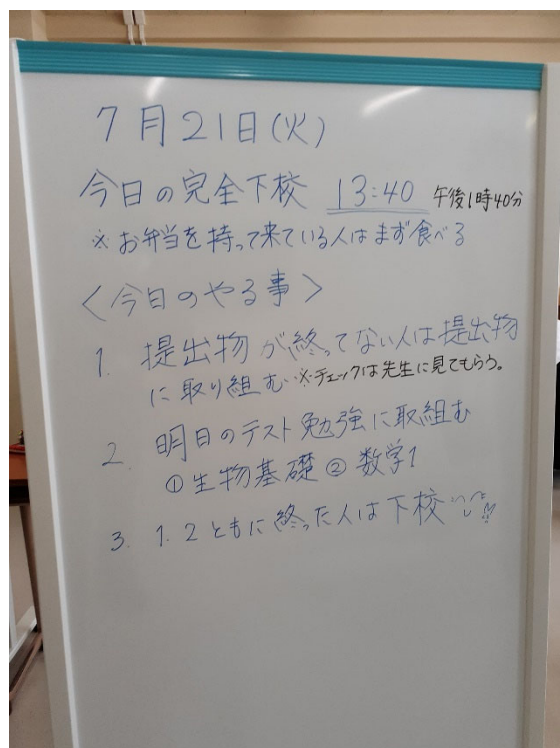
# けやきセミナー（1）

## 多文化教室

（在県外国人等特別募集の生徒）  
毎週火曜日放課後・定期テスト



# けやきセミナー（2） （連携募集生徒） 定期テスト前・夏季休業中

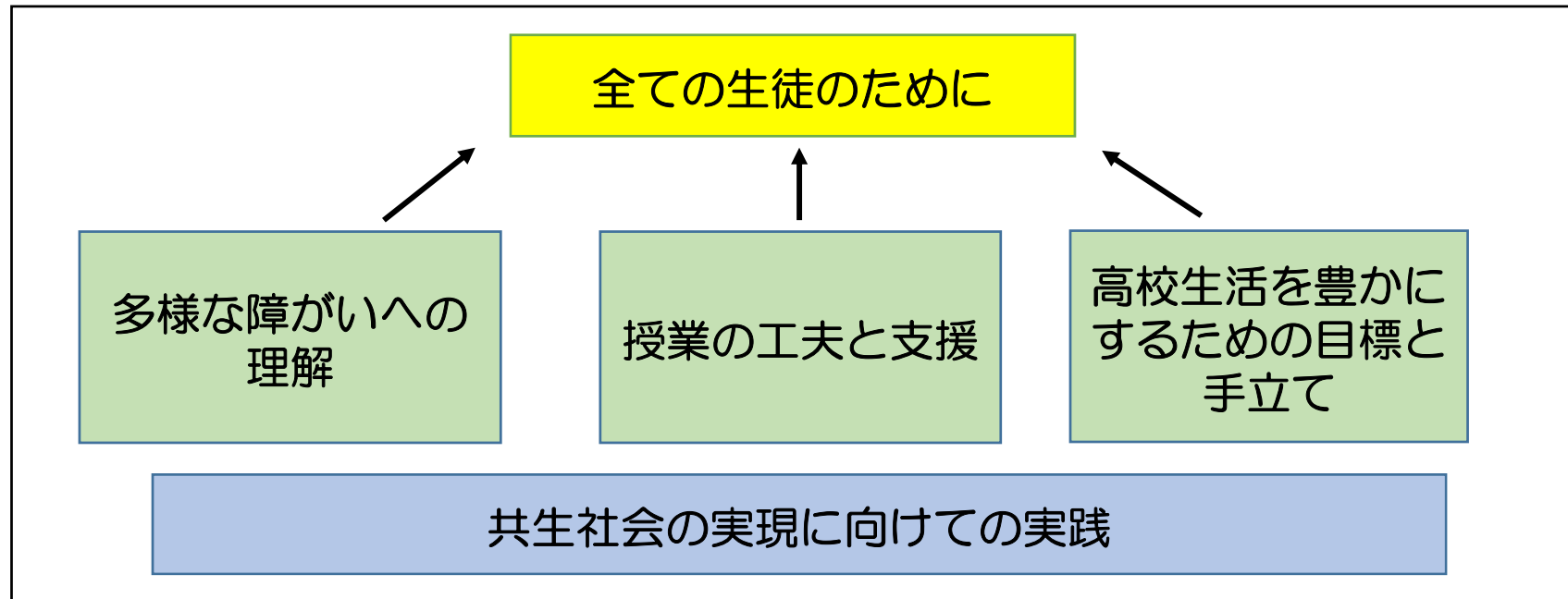


# 高校における 特別支援教育の課題

# 【高校における特別支援教育の課題】

中学校との進路指導連携・生徒本人による自己開示・高校教員文化

高等学校における支援教育の一層の充実  
(中学校卒業後の進路選択の幅の広がり)



# ESD社会の到来

- Education for Sustainable Development  
(持続可能な開発のための教育)

- ① すべての人が質の高い教育の恩恵を享受すること。
- ② 持続可能な開発が教育に取り込まれること。
- ③ 価値観と行動の変革をもたらすこと。



- 世界で起こるすべてはつながっている。多様性を尊重し、誰をも排除せず、機会均等を目指して具体的な行動に移せる力を育もう。

ご清聴ありがとうございました。



# 多様な子どもを包み込む 「秋田県大仙市」の実践について



Daisen City  
Board of Education

20200927 第10回秋田の教師力高度化フォーラム

大仙市教育委員会 櫻田武

takeshi-sakurada14@city.daisen.lg.jp



## 秋田県大仙市

平成17年3月 大曲市、神岡町、西仙北町、中仙町、協和町、南外村、仙北町及び太田町の1市6町1村が合併して誕生

◆全国に誇る大仙市の自慢  
大曲の花火、国指定重要無形民俗文化財「刈和野の大綱引き」、国指定名勝「旧池田氏庭園」、全国500歳野球大会、真木真昼県立自然公園、ドンパン祭り、まほろば唐松「能楽殿」、全国屈指の米どころ、多くの酒蔵を有する酒どころ、味わい豊かな農産物（トマト、枝豆）、いぶりがっこの生産地、3つの民謡全国大会

### 地域のプロフィール



人口：80,348人  
面積：866.79km<sup>2</sup>  
(R2.1月末住基)

市面積の4分の1を田園が占める 自然豊かな田園交流都市



# Towards Barrier Free Thinking もっと 心のバリアフリーを！

**D** Diversity  
**A** Accessible  
**I** Impossible → Possible  
**S** Special  
**E** Educational  
**N** Needs



Daisen City  
Board of Education

# 多様な子どもたちを包み込む取組

1. 特別支援教育担当指導主事の配置
2. 特別支援教育アドバイザーの配置
3. 特別支援学級担任等研修会の開催
4. 就学や教育に関する相談会
5. 学校生活支援員の配置
6. 特別支援教育支援充実研修会の開催
7. 「心のバリアフリー事業」の実施
8. 授業のユニバーサルデザイン化の推進
9. 個別の（教育）支援計画、個別の指導計画の形式統一
10. 基礎的環境整備の充実
11. 関係機関との連携



# 8. 授業のユニバーサルデザイン化の推進

- 大仙市立花館小学校
- 大仙市立西仙北小学校
- 大仙市立中仙小学校
- H29年度～全ての小・中学校でユニバーサルデザインの授業づくりに取り組む



飛躍知の育成  
～「ソサエティ5.0」と大仙教育メソッド～

大仙市教育委員会 教育長 吉川 正一

## 「ソサエティ5.0」

「ソサエティ5.0」とはこれまでの社会（Society）を、  
消費社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業  
社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）とし、新た  
な社会を目指すもので、第5期科学技術基本計画において  
我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて顕著された  
ものである。

「ソサエティ5.0」は例えば以下の社会とされている。  
-IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、新たな価値が生まれる社会  
-イノベーション（技術革新）により、様々なニーズに対応できる社会  
-AIにより、必要な情報が必要な時に提供される社会  
-ロボットや自動走行車などの技術で、人の可能性が広がる社会

文部科学省のSociety5.0に向けた人材育成に關する大匠  
懇話会と新たな時代を生き抜く方の育成に關する省  
内タスクフォース（専門委員会）は、これまでの議論を  
「Society5.0に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」(H30.6月)にまとめ公表した。

これによればSociety5.0において求められる人材像は以下の  
ように考えられている。

-技術革新や価値創造の源となる「飛躍知や発見・創造する人材」と、それらの成果と社会課題をつなげ、プラットフォーム（基盤となるハード・ソフト）をはじめとした新たなビジネスを創造する人材

また、Society5.0における学校は以下のようになると予想している。

-一斉一律の授業スタイルの脱却から抜け出し、読解力等の基礎的学力を確実に習得させつつ、個人の進捗や能力、関心に応じた学びの場となることが可能となる。  
-同一学年での学習に加えて、学習進度や学習到達度、学習態度に応じた異年齢・異学年での協働学習も広がっていくことができる。

-学校の教室での学習のみならず、大学（「アドバンスト・ブレイクメント」など）、企業、NPO、教育文化スポーツ施設、農山村の豊かな自然環境などの地域の様々な教育資源や社会関係資源を活用して、いつでもどこでも学ぶことができる（エビキタス・ラーニング）ようになる。

※飛躍知→未来を切り拓く多様な知識  
※アドバンスト・ブレイクメント→高校と連携し、生徒が本学の授業を受講すれば、入学後に単位として認定するしくみ

「大仙教育メソッドを支える機動力」  
Society5.0における学校は、より多面的な教育活動・様々な教育機関や地域との連携が強化された学校と見える。その観点で見れば、「大仙教育メソッド」は、多様な教育機関や地域とのつながりを重視した学校運営を推進するという点で、軌を一にするものとなっている。  
したがって、これまでの連携をより充実させ、グローバルな視点をもって地域活性化に投資する子どもの育成を進めていきたいものだ。そのために、「基礎となる力」「学ぶ力」「活かす力」のキーワードとなっている「思いやり」「たくましさ」「市民性」「習熟（基礎・基本）」「探究（探求）」「グローバル」「多様性」「地域に根ざしたキャリア教育」「ESD」をより充実した学校運営を期待したい。

しかし、一方で支援を要する児童生徒が増える中において、「子どもにとっての学び」について再確認する必要がある。そのための指導のあり方の検討の一つとして、「ユニバーサルデザイン」を重視した指導を模索していただきたい。指導に当たってのポイントの中で、特に次の3点に注目したい。それは、「学習のめざす、深掘り、見直し」の見える授業、「提供したことへの確認の徹底」、「何ができたか、できないか」を明確に評価できる授業展開である。このことは、秋田の探究型学習にも通じていると思う。不易流行一時代は変わっても、非上ひさしの言葉「わずかしいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことをおもしろく」を心に留めながら、これからも笑顔で子どもたちに向かう教育を目指していきたいものである。



＜左側：協働学習しながら学ぶ姿＞ ＜右側：授業内容を発表するALTとGT＞

# 9. 個別の（教育）支援計画、個別の指導計画の形式統一

- ▶ 認定子ども園・保育園～小学校～中学校まで型式の統一
- ▶ 「SENフォルダ」の作成
- ▶ 大仙市教育委員会でもデータ保管

平成 年度 大仙市個別の支援計画（解説） 【 学校 】 平成23年度から個別の指導計画を作成しているすべての児童生徒に対し、個別の支援計画の作成をお願いしております。

【作成：平成 年 月 日】  
【訂正：平成 年 月 日】

立寄り方 □□□□ 学年 2年 生年月日 年 月 日

氏名 □□□□ 性別 男 学年 2年 生年月日 年 月 日

種 別 小学校 上学年 発達障害者支援法 発達障害者支援法 発達障害者支援法 発達障害者支援法

本人や保護者の希望や願い ※保護者の意向が優先となりますが、本人、保護者の意見を十分に聞き取り、

教育的ニーズ ※本人や保護者の希望に学習における困り感を踏まえ、教育的ニーズを明らかにします。

支援目標 ※達成可能な見込みのある学習課題を設定します。場合によっては学習者の行動目標を設定します。

項目	支援内容	支援機関・担当者	留意
学校	①教科・科目、教科の難易度は、負担を減らすから行う。 ②取り進む内容を理解しているか確認する。 ③災害時の対応に備えた避難訓練は記入する。 障がい及びびびりした児童の合理的配慮も書き入れます。	①教科担当：□□□□ ②学年主任・支援員：□□□□	①教科等は既習し、見ながら学習をすることによって理解が深まった。学習困難の場にも学習が有効である。 ②学習の状況によって追加される。「次週に備えてこらふ。」の言葉かけが有効。
医療	④ストラテジーの起承	④主治医：□□□□ ④療育担当：□□□□ ④療育担当：□□□□	④日頃から話を聴かされたこと、効果が見られる。個別支援は特に、継続して効果確認を繰り返される。
発達障害者支援センター	⑤時間や日程をホワイトボードにて掲示する。 ※放課後児童クラブや放課後サービスの効果とも連携を取り合ってください。	⑤担当者：□□□□	⑤書案に添えて、添削指導すること、次の学期に自ら取り組むことができた。
地域・スポーツその他	⑥休養時間の確保	⑥担当者：□□□□	⑥休養時間20分間につき、5分間の休養時間をとった。授業中の疲れた印象が減った。
総合的見			

個別の支援計画の作成  
①本人、保護者の希望や願いに基づき、学年担任が作成する。作成に当たっては、校内外関係機関や専門家と連携し、内容を検討する。  
②必要に応じて、医療、福祉、福祉等の専門家と連携し、個別支援計画の作成内容を決定する。  
③支援計画の作成にあたっては、合理的配慮の内容を明記する。  
④個別支援計画の作成にあたっては、校長が承認する。  
⑤作成した個別の支援計画の報告を、教育委員会や学年委員会において報告し、承認する。  
⑥学年担任が作成した支援計画は、適切な時期に本人や保護者に報告する。

個別支援計画の作成・活用ポイント  
①本人、保護者の希望や願いに基づき、学年担任が作成する。作成に当たっては、校内外関係機関や専門家と連携し、内容を検討する。  
②必要に応じて、医療、福祉、福祉等の専門家と連携し、個別支援計画の作成内容を決定する。  
③支援計画の作成にあたっては、合理的配慮の内容を明記する。  
④個別支援計画の作成にあたっては、校長が承認する。  
⑤作成した個別の支援計画の報告を、教育委員会や学年委員会において報告し、承認する。  
⑥学年担任が作成した支援計画は、適切な時期に本人や保護者に報告する。

関係機関の例  
労働：パソコン、ワーキング、障害者就業・生活支援センター、事業所 など  
医療：発達障害者支援センター、発達障害者支援センター、発達障害者支援センター、発達障害者支援センター など  
保健・福祉：保育園、認定子ども園、障害者支援センター、発達障害者支援センター、発達障害者支援センター など  
本人  
その他  
親の会：NPO法人、地域の発達障害者支援センター、発達障害者支援センター、発達障害者支援センター など  
教育：小・中・高、発達障害者支援センター、発達障害者支援センター、発達障害者支援センター など

個別の支援計画の作成  
①支援計画及び支援内容が適切であったかを評価する。  
②支援計画の進捗が円滑であったかを評価する。  
③支援計画の内容の改善を図る。  
④必要に応じて支援計画の作成を決定する。  
⑤必要に応じて支援計画の作成を決定する。  
⑥必要に応じて支援計画の作成を決定する。  
⑦必要に応じて支援計画の作成を決定する。

## 5. 学校生活支援員の配置

- 学校生活支援員 54名
- 看護師 1名
- 日本語指導支援員 2名
- 複式学級支援員 3名



# 6. 特別支援教育支援充実研修会

## • ねらい

- (生指) 児童生徒の問題行動及び不登校等をはじめとする解決が難しい様々な問題における発達障がい背景について理解を図り、各校の生徒指導上の課題への効果的な対処に資する。
- (特支) 要支援児童生徒が在籍する学級における児童生徒への支援の在り方と支援を踏まえた授業づくりについて、学級担任及び学校生活支援員の専門性と実践力を養成する。

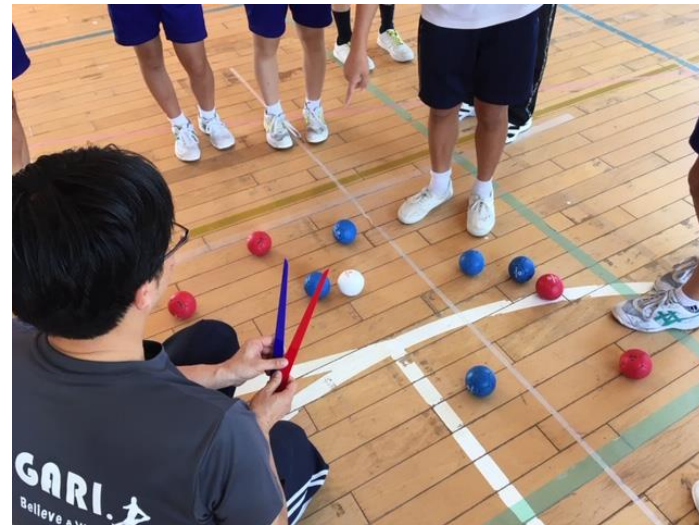


# 7. 「心のバリアフリー」事業の実施

- 平成29年度文部科学省委託「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解（心のバリアフリー）の推進事業」
- 平成30年度～法務省秋田県委託「地域人権啓発活動活性化事業（人権ユニバーサル事業）」

大仙市立大曲西中学校  
大仙市立内小友小学校  
大仙市立大川西根小学校  
大仙市立大曲南中学校  
大仙市立協和中学校  
大仙市立南外中学校

秋田県立大曲支援学校



- 大曲支援学校との交流及び共同学習
- パラリンピアン講演会
- ダイバーズアート展示会
- ダイバーズアート授業
- 車いすバスケットボール体験学習
- 心のバリアフリー講演会、セミナー





学校教育目標			
心のバリアフリーー障がい者理解教育目標			
〇学校の教育活動全体を通して、互いを尊重し、共に学ぼうとする人間関係を育成するための指導の充実 〇障がいのある人や障がいのある人の立場を理解し、共によりよく生活するための方法や工夫について学ぶ、行動しようとする態度の育成に努めること			
低学年		高学年	
〇互いのよさを認め、喜び、あんなに嬉し いと思って活動できる仲間 ・障がいのある人の身近に生活していること を知っている仲間	〇障がいのある人と一緒に活動できる仲間 ・障がいのある人と自分との共通点や相違 点について知っている仲間	〇障がいのある人の生活がよりよくなって、 主体的に行動できる仲間 ・障がいのある人の生活する上での困難さ に気づき、共感することができる仲間 （共に考え、障がいについて）	
学習活動における重点目標			
低学年	中学年	高学年	
〇自分の友達の上で学習する、一緒に仲よく 生活することができる学習	〇互いのよさを認め、喜び、あんなに嬉し いと思って活動できる仲間、協力して 生活することができる学習	〇一人一人の個性や能力を大切に、役割 分担がはかばかしく生活することができる学習	
生活科、総合的学習の時間、特別活動、特別の教科課程、各教科に関する指導の重点目標			
生活科	総合的 学習の 時間	特別活動	特別の 教科 課程
・障がいのある人と関わり活動したり することを通して、相手のことを理解 しようとしている、相手のことを理解 しようとしている、相手のことを理解 しようとしている。	・障がいのある人と関わり活動したり することを通して、相手のことを理解 しようとしている、相手のことを理解 しようとしている、相手のことを理解 しようとしている。	・障がいのある人と関わり活動したり することを通して、相手のことを理解 しようとしている、相手のことを理解 しようとしている、相手のことを理解 しようとしている。	・障がいのある人と関わり活動したり することを通して、相手のことを理解 しようとしている、相手のことを理解 しようとしている、相手のことを理解 しようとしている。
・生活科の授業を通して、障がいのある 人の生活に気づき、一緒に楽しく 活動しようとしている、相手のことを 理解しようとしている、相手のことを 理解しようとしている。	・生活科の授業を通して、障がいのある 人の生活に気づき、一緒に楽しく 活動しようとしている、相手のことを 理解しようとしている、相手のことを 理解しようとしている。	・生活科の授業を通して、障がいのある 人の生活に気づき、一緒に楽しく 活動しようとしている、相手のことを 理解しようとしている、相手のことを 理解しようとしている。	・生活科の授業を通して、障がいのある 人の生活に気づき、一緒に楽しく 活動しようとしている、相手のことを 理解しようとしている、相手のことを 理解しようとしている。
・生活科の授業を通して、障がいのある 人の生活に気づき、一緒に楽しく 活動しようとしている、相手のことを 理解しようとしている、相手のことを 理解しようとしている。	・生活科の授業を通して、障がいのある 人の生活に気づき、一緒に楽しく 活動しようとしている、相手のことを 理解しようとしている、相手のことを 理解しようとしている。	・生活科の授業を通して、障がいのある 人の生活に気づき、一緒に楽しく 活動しようとしている、相手のことを 理解しようとしている、相手のことを 理解しようとしている。	・生活科の授業を通して、障がいのある 人の生活に気づき、一緒に楽しく 活動しようとしている、相手のことを 理解しようとしている、相手のことを 理解しようとしている。
・生活科の授業を通して、障がいのある 人の生活に気づき、一緒に楽しく 活動しようとしている、相手のことを 理解しようとしている、相手のことを 理解しようとしている。	・生活科の授業を通して、障がいのある 人の生活に気づき、一緒に楽しく 活動しようとしている、相手のことを 理解しようとしている、相手のことを 理解しようとしている。	・生活科の授業を通して、障がいのある 人の生活に気づき、一緒に楽しく 活動しようとしている、相手のことを 理解しようとしている、相手のことを 理解しようとしている。	・生活科の授業を通して、障がいのある 人の生活に気づき、一緒に楽しく 活動しようとしている、相手のことを 理解しようとしている、相手のことを 理解しようとしている。
・生活科の授業を通して、障がいのある 人の生活に気づき、一緒に楽しく 活動しようとしている、相手のことを 理解しようとしている、相手のことを 理解しようとしている。	・生活科の授業を通して、障がいのある 人の生活に気づき、一緒に楽しく 活動しようとしている、相手のことを 理解しようとしている、相手のことを 理解しようとしている。	・生活科の授業を通して、障がいのある 人の生活に気づき、一緒に楽しく 活動しようとしている、相手のことを 理解しようとしている、相手のことを 理解しようとしている。	・生活科の授業を通して、障がいのある 人の生活に気づき、一緒に楽しく 活動しようとしている、相手のことを 理解しようとしている、相手のことを 理解しようとしている。

# 心のバリアフリーー 障がい者理解学習 リーフレット

「心のバリアフリーー」とは、「様々な心身の特性や考え方もつ  
すべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションを  
とり、支え合うこと」です。

学校教育の中では・・・  
〇障がいのある人と障がいのない人が互いに理解し合うこと  
〇障がいのある子どもたちと障がいのない子どもたち、及び地域社会  
の人たちが、触れ合い、ともに活動することが「心のバリアフリーー」を指します。

いっしょにスポーツやゲームを  
して楽しかったし、なぐやくな  
れてよかったです。

声をかけ合ってとても楽しかっ  
た。チームの仲間と仲良くなれ  
てよかったです。



障がいがある人を見る目が変わりました。  
不自由だからではないでなくて、こう  
したら一緒に楽しめるのではと考えるこ  
とが大切だと思いました。

ちょっと緊張したけれど、友  
達に合えてうれしかったです。

このガイドは、小・中学校が、「心のバリアフリーー 障がい者理解学習」に積極的に  
取り組むことができるように作成しました。

平成30年3月  
大仙市教育委員会

## どんな おともだち？ 1

- ・ 車いすをつかっている おともだち



## だいじょうぶかな

## どんな おともだち？ 2

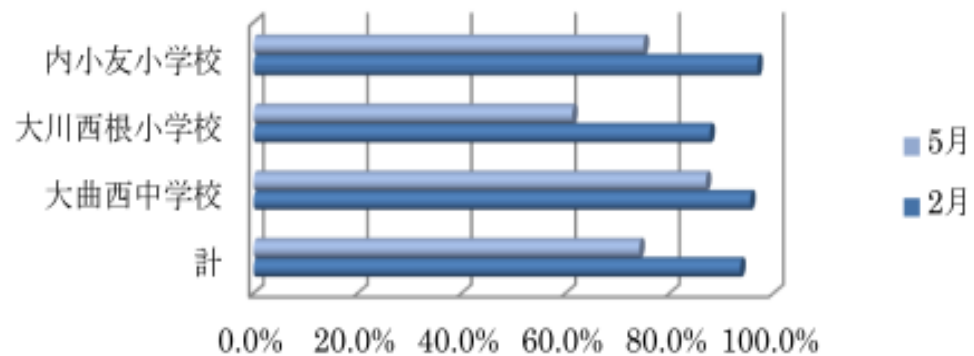
- ・ 文字をおぼえたり 話をしたりするのが なが  
てな ゆっくりタイプの おともだち



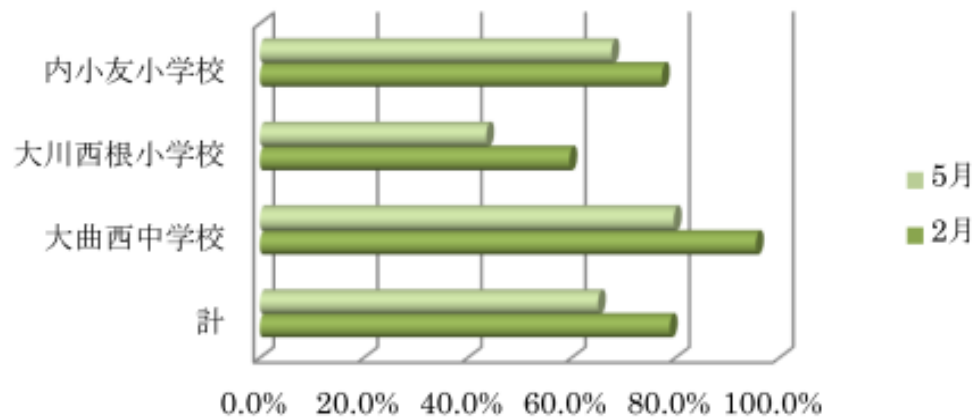
## だいじょうぶかな



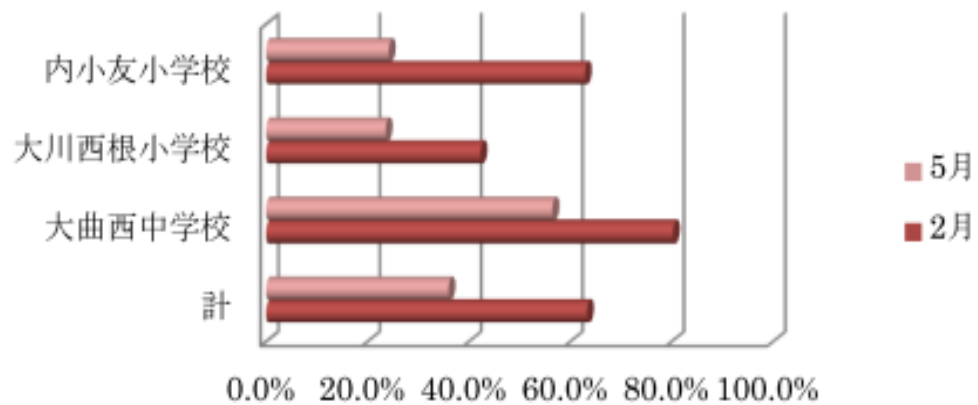
### 身近に生活していることを知っている



### 違いについて知っている



### 共通点について知っている



# 11. 関係機関との連携 Special Thanks

- 大仙市子ども支援課 幼保推進班
- 大仙市社会福祉課 障がい者支援班
- 健康増進センター 子育て世代包括支援室
- 社会福祉協議会
- 通級指導教室
- スペース・イオ
- 県教育委員会
- 県立支援学校
- 秋田大学
- 秋田公立美術大学 その他



全ての子どもが価値のある存在。

▶ これからの学校には、(中略)一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の作り手となることができるようにすることが求められる。

(小学校学習指導要領 前文 平成29年告示)

# 多様な子供たちを包み込む教育の実践 のために

▶ 「あきたユニバーサルデザイン研究会」

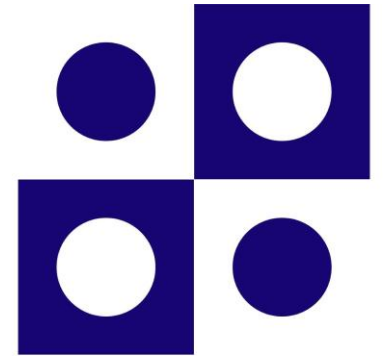
▶ 日本授業UD学会 あきた支部

<http://www.akitaud.com>



▶ 「SAKURADASITE」

<https://sakuradasite.wordpress.com/>



あきたUD  
Universal design